

年表

東京YWCAの

100年

東京YWCA会館

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8 TEL 03-3293-5421 FAX 03-3293-5570



1990年竣工

2005年撮影

1929年
撮影



武蔵野センター

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-16 TEL 0422-52-3881 FAX 0422-53-1436



1982年竣工

2005年撮影

1963年
撮影



板橋センター

〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-25 TEL 03-5914-1854 FAX 03-5914-1856



2003年竣工

2005年撮影

1966年
撮影



国領センター

〒182-0022 東京都調布市国領町7-11-1 TEL 0424-83-5151 FAX 0424-82-2448



2005年撮影

1968年竣工



1993年竣工

1968年
撮影



砂土原会館

〒162-0842 東京都新宿区砂土原町3-1-1 砂土原センター TEL 03-3268-4451 FAX 03-3268-4452
ケアサポート TEL 03-5225-4898 FAX 03-5225-4899



1971年竣工

2005年撮影

1971年
撮影



野尻キャンプ場

〒389-1312 長野県上水内郡信濃町富濃3946 TEL・FAX 026-255-2414



2005年撮影

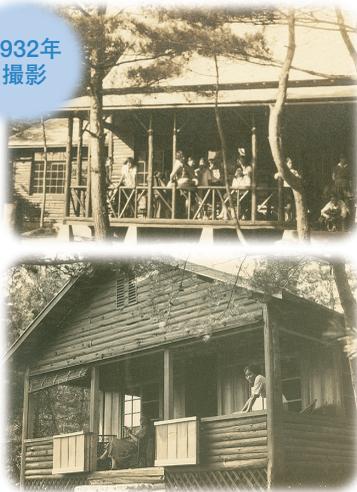
1932年メインホール竣工



1953年
撮影



1932年
撮影



国領憩の家

1926年
撮影



関口寮

1959年
撮影



軽井沢カフマンハウス

1920年
撮影



保田コテージ

1934年
撮影



東京YWCAの 100年

目次

年表

1894年 ▶ 1920年	2～ 8
1921年 ▶ 1945年	8～20
1946年 ▶ 1970年	20～32
1971年 ▶ 1995年	32～46
1996年 ▶ 2005年	46～52

東京YWCAとクリスマス	54～55
典拠・参考資料	56
あとがき	57

凡例

年代・月日 年代月日の表記は西洋紀元・陽暦を用い、外国での会議などは、現地の日付

記号 『 』 は、単行本・雑誌・新聞など
 「 」 は、主題・声明・講演題目など
 () は、会場・場所・講師名など

3. 一 は、日付が未確定であるもの
 ・ で始まる項目は、月日が特定できないもの
 * は、注釈

略記 NCC …National Christian Council in Japan 日本キリスト教協議会
 YMCA …Young Men's Christian Association 基督教青年会
 YWCA …Young Women's Christian Association 基督教女子青年会

年代	東京YWCAのうごき
1894 (明治27)	
1898 (明治31)	
1900 (明治33)	
1901 (明治34)	
1902 (明治35)	
1903 (明治36)	
1904 (明治37)	
1905 (明治38)	<p>11.25 東京YWCA発会式を早稲田大隈邸で行う 出席約800名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麹町区土手三番町15に事務所を置く(日本YWCAと同じ) ・聖書の組(クラス)を開始

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	<p>9.- 万国(世界)YWCA創立※ ロンドンに本部を置く ※英語表記はWORLD YWCA。 日本では、1940年代初めごろまでは「万国YWCA」の表記を用いているが、本年表では敢えて「世界YWCA」とする。</p>	<p>8.1 清国に宣戦布告一日清戦争(～1895)</p>
	<p>第1回世界YWCA大会 ロンドンで開催 「日本YWCAを創設する努力をする」という提案は時機尚早とのことでとりあげられず</p>	<p>11.- 帝国婦人協会設立</p>
	<p>10.- 世界YWCA総幹事、A.M.レイノルズ来日</p>	<p>9.14 津田梅子、女子英学塾創立</p>
	<p>11.9 東京・横浜の婦人宣教師会議、日本のYWCA創立のため幹事派遣を世界YWCAに要請することを決議</p>	<p>3.24 愛国婦人会創立</p>
	<p>7.- 第2回世界YWCA大会(ジュネーブ)で正式に日本の問題をとりあげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河井道子とC.マクドナルド、米国YWCA修養会に参加 	<p>1.30 日英同盟協約調印</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・T.モリソン最初の外国人幹事として日本YWCA創立を援助するため来日 	<p>4.- 羽仁もと子家庭雑誌「婦人の友」前身創刊</p> <p>7.- 日本基督教青年会同盟(YMCA)成立</p> <p>8.22 東京電車鉄道(路面鉄道)新橋・品川間開通</p>
	<p>5.- 『明治の女子』を機関誌として発刊</p> <p>12.- C.マクドナルドは世界YWCAの要請を受けて、カナダYWCAより来日、モリソンと交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立委員会成る一発起人をそのまま創立委員と名を改める 	<p>2.10 ロシアに宣戦布告一日露戦争開始(～1905)</p> <p>8.22 第1次日韓協約調印</p> <p>9.- シベリア鉄道開通</p> <p>9.- 与謝野晶子「君死に給ふこと勿れ」(詩発表)</p>
	<p>9.29 日本YWCA誕生(小石川女子伝道学校内)創立委員会は中央委員会と改称、正式にC.マクドナルドを総幹事とした</p>	<p>5.- 日本海海戦</p> <p>9.5 日露講和条約調印</p>

年代	東京YWCAのうごき
1905 ^(続き) (明治38) 会長 津田梅子 総幹事 C.マクドナルド	
1906 (明治39) 会長 津田梅子 総幹事 C.マクドナルド	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の寄宿舎開設
1907 (明治40) 会長 津田梅子 総幹事 C.マクドナルド	<ul style="list-style-type: none"> 4.- 学生部生まれる 6.1 第1回年会(女子英学塾講堂) ・聖書の組盛んになる
1908 (明治41) 会長 津田梅子	
1909 (明治42) 会長 津田梅子 総幹事 M.L.マシュー	<ul style="list-style-type: none"> 10.- M.L.マシュー東京YWCA総幹事となる ・料理の組始まる(外国人幹事宅)



施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	11.12~18 世界女子青年会祈祷週(現在に至る)	
<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎のため小石川区水道町28に家を2軒借りる 	<ul style="list-style-type: none"> 5.12 第3回世界YWCA大会(パリ)において日本YWCAの創立を報告、世界YWCAに加盟 7.14~19 第1回学生夏期修養会 28校参加165名(1969年学生部廃止まで継続) 	11.26 南満州鉄道設立
<ul style="list-style-type: none"> ・牛込区納戸町45の土地を購入(購入費は英米加のYWCAの寄付による) 	<ul style="list-style-type: none"> 4.3 世界基督教学生連盟大会が神田で開かれる 参加627名 ・10余の基督教主義学校内にYWCAが組織される 	7.24 第3次日韓協約により、韓国は事実上日本の保護国となる
<ul style="list-style-type: none"> 10.- 納戸町寄宿舎落成し、第1宿舎とする(寄宿生35名) ・小石川区水道町(安藤坂)に寄宿舎の敷地200坪購入(募金による) 		11.16 日比谷図書館開設
<ul style="list-style-type: none"> 4.- 水道町に第2寄宿舎新築なる(寄宿生60名) ・北神保町の敷地購入 		<ul style="list-style-type: none"> 10.26 伊藤博文暗殺 12.16 山手線開通

年代	東京YWCAのうごき
1910 (明治43) 会長 津田梅子 総幹事 M.L.マシュー	12.15 事務所を麹町区三番町41に移す(日本YWCAと同じ) ・職業婦人の英語の組開始
1911 (明治44) 会長 津田梅子 総幹事 M.L.マシュー	5.20 第5回年会(納戸町寄宿舎) 12.26 東京YWCAクリスマス祝会(新渡戸邸)参加150名 ・工場伝道、病院伝道盛んになる
1912 (明治45) (大正1) 会長 三宮八重野 総幹事 M.L.マシュー	4. 第6回年会(水道町寄宿舎) 11.4 女子学生大会(神田青年館)参加400名 12.- 赤坂検町に外国人宿泊所開設 ・労働婦人部の活動はじまる
1913 (大正2) 会長 三宮八重野	12.- 「旅行者の友」事業開始(東北大飢饉による家出人多く、上野駅で案内相談と宿泊にも応じた)(～1921年)
1914 (大正3) 会長 新渡戸まり子	6.1 労働者家庭の幼児を対象とする好友園(小石川福岡邸内)開設、45名在籍(～1918.3) 6.6 第8回年会 出席90名 ・E.カフマン東京YWCA幹事となり、以後1940年まで無給幹事として働く
1915 (大正4) 会長 新渡戸まり子 総幹事 M.L.マシュー 加藤タカ	2.- 慈善音楽会(上野音楽学校)参加750名 10.17 神保町会館献堂式 敷地180坪(17,000円)、建坪延300坪(33,000円)木造3階建、3階に第3寄宿舎開設 11.14 天皇即位奉賀祈祷会 ・クラブ始まる

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	5.- 第4回世界YWCA大会(ベルリン)に河井道子出席	8.22 韓国併合
		1.18 大逆事件被告(幸徳秋水他)に死刑判決 9.1 平塚らいてう他『青鞥』創刊 10.10 中国辛亥革命始まる
2.- 寄宿舎に電灯設置	6.1 事務所を牛込区市谷田町3丁目12に移転 9.1 河井道子総幹事となる 9.1 『明治の女子』を『女子青年界』に改題	1.1 中華民国成立 7.- 第5回ストックホルム・オリンピックに日本選手初めて参加 7.30 明治天皇死去、大正に改元
・神田区北神保町14に会館敷地180坪購入	6.- 横浜YWCA発足	・東北、北海道大飢饉 ・平塚らいてう等の「新しい女」運動盛んになる
	6.- 第5回世界YWCA大会(ストックホルム)渡辺百合子出席 11.2 日本YWCA同盟財団法人認可	1.12 桜島大噴火 7.28 第1次世界大戦始まる 8.15 パナマ運河開通 8.23 日本、対独宣戦布告
	9.- C.マクドナルド総幹事辞任 10.17 日本YWCA事務所、東京YWCA神保町会館内に移転	1.18 中国に対し21カ条の要求 5.25 日華条約調印

年代	東京YWCAのうごき
1916 (大正5) 会長 新渡戸まり子 総幹事 加藤タカ	2.- 女子計算員養成科新設(商業簿記、珠算、実務等 6カ月コース) 4.- 体育部、宗教部(聖書クラス20)、教育部(仏語科、生花科、英語社交科、音楽科)新設 5.21 第10回年会 出席271名 ・M.ページ外国人総幹事となる(～1918年) ・女中夜学校開始 ・社会部(「旅行者の友」事業)
1917 (大正6) 会長 新渡戸まり子 総幹事 加藤タカ	1.- 中華民国留学生を招待、新年会を催す 5.26 第11回年会 出席200名 10.20 国際親善バザー(世界めぐり) 純益613円
1918 (大正7) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.4 第12回年会 6.- 巡回産婆看護婦事業開始(～1921年) 7.- 外国人総幹事M.ページ辞任、京都YWCAへ、E.カフマン外国人総幹事となる(～1930年) 9.- 英語商業科新設 11.18 シベリア救済のための園遊会(小笠原伯爵庭園) 参加1800名余
1919 (大正8) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.10 第13回年会 出席約200名 11.- YWCA紹介のためのパジェント(YMCA会館) 主題「YWCAの精神」出演250名 観客4000名(日本で最初のパジェント)
1920 (大正9) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.8 第14回年会 出席約150名
1921 (大正10) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.7 第15回年会 出席150名 6.1 第1回体操競技会(神保町会館) 11.- 初めて組織的な募金運動を行い、1週間で目標2万円達成

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
9.- 女子休養所を鶴沼海岸に設ける(1泊20銭)		
・牛込区砂土原町に外国人幹事住宅新築、カフマン邸として用いられる		3.15 ロシア2月革命 11.7 ソビエト政権樹立(ロシア10月革命)
	4.27 大阪YWCA発会式 10.- M.L.マシュー、シベリア救済のため働く 10.11～11.2 河井、加藤両総幹事シベリア出張	8.2 シベリア出兵宣言 8.3 米騒動起こる 11.11 欧州休戦条約成立、第1次世界大戦終わる 12.6 勅令により、大学令、高等学校令公布
7.～8.- 鎌倉峯ヶ原に日本で最初の職業婦人のための夏期休養所設置(1922年保田に移る)	5.17 本部、東京、横浜日本人幹事会(鶴沼)出席11名 9.5～7 全国幹事修養会(御殿場 東山荘)出席外国人20名、日本人14名 9.1 事務所を牛込区市谷田町に移転	3.1 朝鮮万歳事件(3.1運動) 5.4 中国五四運動 6.28 ベルサイユ条約調印
	3.21 神戸YWCA発会式 6.2～10 世界YWCA委員会(スイス・シャンペリー)河井道子出席 10.- 事務所を神田区錦町に移転	1.10 国際連盟成立 5.2 日本初のメーデー 10.1 第1回国勢調査実施(内地人口5596万人、外地人口2103万人)
	9.8 全国幹事会(箱根)48名(日本人24名)	4.- 足尾銅山争議 7.1 中国共産党結成 11.4 原敬首相暗殺

年代	東京YWCAのうごき
1922 (大正11) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.6 第16回年会 約250名 12.24 第1回市民クリスマス(日比谷公会堂)
1923 (大正12) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	5.- 第17回年会 9.1 関東大震災、神保町会館全焼(諸資料焼失)、2つの寄宿舎は無事、仮事務所を納戸町第一寄宿舎に置き、震災救護事業にあたる ・神保町焼け跡にテント3張り、10数名の宿泊者を収容 ・四斗樽を浴槽代用として希望者に提供、一夜平均20名 ・水道町寄宿舎を開放、罹災老人、病人等20名収容 10.- 月島事業開始(東京府の依頼を受け) 11.- 東京YWCA会館のバラック建築のための募金開始
1924 (大正13) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	4.- 夜間女学校開始するが、経費続かず1年で閉鎖 5.24 第18回年会(仮会館開館式を兼ねる) 出席約550名 ・東京府より5万円、カナダ赤十字社より15,000円の復興資金
1925 (大正14) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	1.- 復興募金運動着手(目標25万円) 2.26 第19回年会 出席約90名 ・最寄会始まる — 芝、小石川、牛込
1926 (大正15) (昭和1) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.27 第20回年会 標語「神を知り 完全心をもて喜び勇んで 之に仕えよ」 4.29 東京YWCA第1回事務職員会
1927 (昭和2)	2.27 第21回年会 出席約220名 標語「目を覚まし且つ祈れ」(マタイ26:41) 10.11 東京YWCA財団法人設立認可 12.4 駿河台会館定礎式 250余名

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
7.9 保田休養所開設	5.24 第1回幹事養成科卒業式、6名卒業 10.23 事務所を神田区駿河台袋町10番地に移す	2.6 ワシントン海軍軍縮条約調印 12.30 ソビエト社会主義共和国連邦成立
2.22 E.カフマン 小石川区 関口町に宅地購入、財団へ寄付	3.24 京都YWCA発足 12.- 関東大震災で焼失したため、仮事務所を、神田日曜学校協会敷地内(神田区錦町)に移す	6.1 第1次日本共産党検挙 9.1 関東大震災、死者9万1344人 9.16 伊藤野枝、大杉栄等虐殺さる 11.13 プロテスタント諸教会及びキリスト教諸団体を統一した日本基督教連盟創立
10.- 婦人宿泊所(後の翠香寮)小石川区関口町に落成 ・会館敷地として駿河台(当時甲賀町)に600坪を購入	5.7~13 世界YWCA委員会(ワシントン)長谷川喜多子、J.メンデルソン出席 7.22 御殿場富士岡荘献堂式	7.1 米国排日移民法施行
	10.16~19 第1回日本YWCA全国総会(富士岡荘)、「基督教婦人団体としての女子青年会」、本部の名称を同盟とする。出席120名(内代議員62名)、憲法(会則)及び標語(詩篇36:9)、上海に幹事派遣決定	3.1 ラジオ試験放送開始 4.22 治安維持法公布 5.5 普通選挙法公布
7.24 機関紙『地の塩』創刊(タブロイド版1部10銭、会員無料) 10.10 北多摩郡調布町国領718に職業婦人休養所「憩の家」落成(敷地2000坪) ・家庭部、料理の本出版(1部2円) ・関口町の有職婦人宿舎を翠香寮と改名	7.1~8 世界YWCA委員会(英オックスフォード)植村環、紀内文子、L.スコット出席 10.8 河井道子総幹事辞任承認	12.25 大正天皇死去、昭和と改元
	10.15~17 全国代表者会議(第2回総会にあたる)(富士岡荘)「生命の泉は汝に在り、我らは汝の光によりて光を見む」60名	3.15 金融恐慌起り、休業銀行続出 5.28 第1次山東出兵 12.30 上野-浅草間、地下鉄開通

年代	東京YWCAのうごき
1927 ^(続き) (昭和2) 会長 西野清子 総幹事 加藤タカ	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉の式を行う、以来今日に及ぶ ・有職婦人国際晩餐会開始
1928 (昭和3) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	<p>1.26 第22回年会 出席約120名 標語「汝等、神に來り活ける石の如く建てられて 靈の家となれ」(ペテロ I 2:5)</p> <p>4.- 従来の各クラスをまとめ、学校組織とし東京府より「駿河台女学院」の許可を受け、学院長、総幹事加藤タカ兼務</p> <p>11.10 御大礼奉賀式(昭和天皇即位式) 挙行、記念事業として英語部児童科設置</p>
1929 (昭和4) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	<p>2.11 駿河台会館(地下1階、地上5階) 献堂式(奨励 新渡戸稲造) 入場約1300名</p> <p>3.17 第23回年会 出席約120名 標語「目を覚まし、堅く信仰に立ち、雄々しく且つ 剛かれ」(コリント I 16:13)</p> <p>3.26 駿河台女学院 第1回卒業式(商業科23名、英語科29名、家庭科26名)</p> <p>9.- 東京YWCAの記念日を2月11日にすることに決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京YWCA奨学金制度(「指導者養成基金」の基礎) できる
1930 (昭和5) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	<p>2.11 第24回年会 出席約160名 標語「共に真理の為に働くものとならむ」(ヨハネ III 1:8)</p> <p>4.- 駿河台女学院の実学部、音楽部設置</p> <p>5.17~18 有職婦人部主催で工場世話講習会開く</p> <p>12.- 白山、千住などの細民地区への奉仕 米、炭、古着等の配布</p>
1931 (昭和6) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	<p>1.17 中国朝鮮留学生歓迎の会を開催(同盟と共催) 約30名</p> <p>2.11 第25回年会 出席約600名 宣言「先づ神の国と神の義を求めよ」(マタイ 6:33)</p> <p>創立25周年記念祝賀会</p> <p>4.5 イースター早天礼拝</p> <p>7~8.- 第1回野尻キャンプ(野尻湖外人村)</p> <p>10.20 体育部に山岳会結成(日本最初の女子山岳グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立25周年のこの年の予算は11万5千円
1932 (昭和7) 会長 志立タキ	<p>2.11 第26回年会 出席約350名 標語「汝らキリスト・イエスの心を似て心とせよ」(ピリピ 2:5)</p> <p>2.16 家庭婦人クラブ連合委員会発足</p> <p>5.28 オペレッタ「マジエンカ」公演(日本青年館) 出演150名</p> <p>6.8 社会・隣保事業「私共の家」(白山御殿町) 開始</p>

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	<p>(うち代議員30名)</p> <p>11.11 同盟事務所、神田区表猿楽町基督教青年会同盟内に移転</p>	
	<p>5.9 第6回世界YWCA大会(ブダペスト)「和解の言葉」植村環、杉森孝、安斉とみへ出席</p> <p>9.18 同盟委員会、事務所組織変更、同盟総幹事制を廃止、山本コト主任幹事就任</p>	<p>2.20 最初の普通選挙行われる</p> <p>6.29 治安維持法改正公布、死刑、無期刑追加</p> <p>6.4 張作霖爆殺事件</p> <p>7.- 特別高等警察全県に設置</p> <p>10.8 蒋介石、国民政府主席</p> <p>11.10 昭和天皇即位</p>
2.11 駿河台会館献堂式、地下に日本最初の女子専用屋内プールを開設、カフェテリア、寝室部(ホステル)を設置 ・保田休養所、土地取得	10.17~19 第3回全国総会(富士岡荘)「世に勝つ信仰」59名(内代議員46名)	10.24 ニューヨーク株式相場大暴落、世界大恐慌始まる
4.- 神保町の土地会館を財団法人同仁会に売却 ・プール利用者1日1200人 カフェテリア年間48,000人、ホステル年間3000人	6.17~23 世界YWCA委員会(スイス)志立タキ、辻まつ出席 ・世界YWCA事務所、ロンドンからジュネーブに移る	1.11 金本位制に復帰 4.22 ロンドン海軍軍縮条約調印 10.1 国勢調査(内地人口6445万人、外地人口2595万人) 11.14 浜口雄幸首相、東京駅で狙撃される
10.- 有職婦人クラブ事業として、消費組合設置(後の購買部)	8.1 事務所を神田区錦町1-13基督教教会館に移転 11.1~3 第4回全国総会「生命の泉は汝にあり、我等は汝の光によりて光を見ん」(東京YWCA) 145名(内代議員73名) 国際平和提唱の声明書を世界YWCAへ送る	9.18 満州事変始まる 12.13 金輸出再禁止
3.- 野尻キャンプ場(長野県上水内郡古間村野尻湖畔)の敷地購入約2万坪 8.1 野尻キャンプ場メインホール、ローハウスなど落成	1.- 東北凶作地への救済募金開始 5.3~27 キャンプ指導者講習会参加50余名(YMCAと共催)	1.28 上海事変勃発 3.1 満州国建国宣言 5.15 5・15事件 10.24 大日本国防婦人会発会

年代	東京YWCAのうごき
1932 ^(続き) (昭和7) 総幹事 加藤タカ	7.~8.- 夏期子供学校(白山の子供のため)開催、以後4年間毎年開催 10.10~15 家庭安全展覧会 参観1日平均220名
1933 (昭和8) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.17 第27回年会 出席約300名 世界YWCA会長、総幹事出席 9.29~10.1 世界YWCAアジア地域会議(上海)加藤タカ、山本コト、M.ロー出席
1934 (昭和9) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第28回年会 標語「汝等は命の言を保ちて世の光の如くこの時代に耀く」(ピリピ2:16)会費値上げ2円12銭から3円15銭に 5.- 有職婦人クラブ事業として、洋服相談部設置 9.- 室戸台風に際し京都YWCAのため募金 9.- BG劇研究グループ発足 11.- 函館大火のため義捐金送る、募金目標1万円を超え1万5000円余 11.17 国際子供まつり、19カ国の子供たち約150名参加(日比谷公会堂) 12.5~7 東北凶作地救済のためジャンプセール(不要品交換市)開催 ・国際交友部設置
1935 (昭和10) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第29回年会 出席257名 標語「エホバを俟ち望むものは新たなる力を得ん」(イザヤ40:31) 会員総数2012名 3.22、23 劇研究グループ第1回公演 5.5 駿河台女学院卒業生会組織され、第1回大会開催 11.3 東京YWCA女学部大会「基督者学生と平和」400名 12.7 合同クリスマス・ミラクルプレー「世界の光」(日比谷公会堂)出演者:会員有志ほか、2教会会員、7大学学生
1936 (昭和11) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第30回年会 出席200名 標語「汝等霊を一つにして堅く立ち心の一つにして主の事を務めよ」(コリントI 15:58、ピリピ1:27) 創立30周年祝賀記念式典 安井哲講演、午餐会 [30周年記念事業及び行事] ①基督倫理化運動 ②体育師範部新設 ③母子ホーム設置 4.- 体育師範部設立、7.20認可 4.- 駿河台女学院英語部は語学部と改称

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
1.1 従来の神田区北甲賀町が駿河台1-8-11と地番変更	1.26~2.19 世界YWCAバンウイック会長、S.ニブン総幹事来日 2.14 名古屋YWCA発会式 11.3~5 第5回全国総会(横浜)178名(内代議員80名)中心思想「汝等しづまりて我の神たることをしれ、われはもろもろの国のうちに崇められ全地に崇められるべし」(詩篇46:10)日本YWCA学生連盟の成立	1.30 ナチス政権獲得 3.3 三陸大地震・大津波 死者約3000人 3.27 国際連盟脱退 4.22 京都帝大滝川事件
・職員住宅YWCAホーム落成(牛込区市谷田町)コンクリート3階建、建築費42,000円 ・機関紙『地の塩』雑誌の形をとる。	9.3~7 世界YWCA総会(ジュネーブ)32カ国約100名、M.ロー、加納たつ子出席	3.1 満州国帝政実施(皇帝溥儀) 3.21 函館大火、死者650名 6.1 文部省、学生部に思想局設置 9.21 関西に室戸台風、死者行方不明3036名、全壊流失4万戸 12.1 丹那トンネル開通
・保田休養所増築落成(2階建)費用2433円	11.1~3 第6回全国総会(神戸女学院)中心思想「我等は神の約束によりて義の住むところの新しき天と新しき地とを待つ」132名(内代議員64名)	2.18 天皇機関説事件 8.1 中国共産党、抗日救国統一戦線提唱(8・1宣言) ・平均寿命 男性44.8歳 女性46.5歳
1. 翠香寮閉鎖—母子ホームとするため	10.21~28 世界YWCA極東地域会議(セイロン)植村環、楠田孝、M.ロー、E.カフマン参加	2.26 2・26事件 5.29 思想犯保護観察法公布 7.17 スペイン内戦始まる 8.1 ベルリン・オリンピック開催 11.25 日独防共協定

年代	東京YWCAのうごき
1937 (昭和12) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第31回年会 標語「世に勝つ勝利は我らの信仰なり」(ヨハネⅠ5:4) 東亜に於けるキリスト教指導精神、婦人の社会的地位とその貢献、国際問題について分科会で協議 5.- 田園調布もより会発会 12.4 東京YWCA・東京YMCA合同クリスマス礼拝(日比谷公会堂) コーラス200名、参加1700名 ・二世及び中華留学生友好事業はじまる ・出征家族慰問金、慰問袋募集等行う ・総幹事加藤タカ、世界YWCAの応援幹事として4月より6カ月招聘され、ジュネーブに赴任、12月帰国
1938 (昭和13) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第32回年会 出席217名 標語「望みて喜び、患難にたへ、祈りを恒にせよ」(ロマ12:12) 指導精神の再検討と強化 2.11～23 国民精神総動員強調週間 4.29 体位向上レクリエーションデー(国領) 参加466名 5.8 翠香母子寮並びに保育園献堂式 出席100名 11.19 国際子供デー「世界仲よし旅行」参加21カ国、650名
1939 (昭和14) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	2.11 第33回定期総会(従来の「年会」) 出席207名 標語「汝らキリスト・イエスの心を心とせよ」(ピリピ2:5) 3.20 体育師範部第1回卒業生4名 3.- 白山御殿町地区事業「私共の家」廃止 11.- 加藤タカ東京YWCA総幹事、同盟総幹事も兼任し、日本YWCA・東京YWCA一体化始まる
1940 (昭和15) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	3.2 第34回定期総会 出席241名 標語「我が生くるは基督」(ピリピ1:21) 7.～8.- 内閣印刷局委嘱「女子局員心身鍛練会」(保田)5日間4期 参加985名 11.- 国際交友部廃止、寝室部閉鎖など時局対応策をとる ・この年、外国人幹事全員帰国(カフマン、ホッキン、ケンデル、クイギン、ケリー、ロー)
1941 (昭和16)	1.- 在京中華民国、満州国女子留学生親善とレクリエーションの会 3.8 第35回定期総会 出席148名 「我が生くるは基督」(ピリピ1:21) 3.- カフェテリア、配給米受給できず3月末閉鎖 7.6～16 青年キャンプ開催、他は文部省指令によりキャンプ取止め

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
・母子ホーム開設	3.31～4.2 学生YWCA第1回常務委員会(国領憩の家)、学校間連絡組織として発足 11.6～8 第7回全国総会(植村記念日本基督教会館)「基督による団結、現代社会と世界への使命」出席224名(内代議員103名)	7.7 蘆溝橋事件、日中戦争始まる 9.13 国民精神総動員実施要綱発表(八紘一宇、東亜新秩序強調) 9.23 中国で第2次国共合作成立 10.1 朝鮮人に「皇国臣民の誓詞」配布 11.6 日独伊防共協定 12.13 日本軍、南京占領
・国定ローマ字決まり、学院はこれを採用『地の塩』ChinosioをTinosioとする	6.15 事務所を米国YWCA寄贈の家屋、四谷区東信濃町10-18に移転 7.27 同盟委員会、朝鮮YWCA加盟承認 9.7～17 世界YWCA総会(カナダ・マスコカ)「生命の中心イエス・キリスト」光静枝、鳥村やま参加	1.3 女優岡田嘉子、ソ連亡命 3.13 独、オーストリア併合 4.1 国家総動員法公布 4.10 満蒙開拓青少年義勇軍五千人、渡満開始 10.21 日本軍広東占領、交戦拡大 11.3 近衛首相、東亜新秩序建設声明
3. 紙統制のため『地の塩』第113号で廃刊、同盟発行の『女子青年界』に統合 9. 翠香保育園休園 ・故中村深雪を記念して、スキー小屋寄贈される(群馬県吾嬭郡鹿沢)	7.24～8.2 世界基督者青年大会(アムステルダム)日本代表29名の内11名がYWCA会員、指導者として光静枝参加 11.3～5 第8回全国総会(名古屋)「我が生くるは基督」東亜新秩序建設への貢献、朝鮮連合会加盟 出席148名(内代議員85名)	1.15 横綱双葉山69連勝で止まる 5.12 ノモンハン事件 7.8 国民徴用令公布 8.23 独ソ不可侵条約調印 9.1 独軍、ポーランド侵攻開始 第2次世界大戦始まる 12.26 朝鮮総督府、創氏改名強制
4.- 納戸町寄宿舎を在東京朝鮮女子青年会に貸与、朝鮮女子学生寄宿舎開始(36名) 9.- 食堂部は飲食店組合に加入、砂糖、マッチの配給を受ける	9.- 前年総会決議「女子体育の奨励」に従い体育専門委員会新設、竹内菊枝幹事、東京・日本YWCA兼任となり活動を推進 9.17 同盟「新事態に対する理解と女子青年会の立場」を各市YWCAに送付	4.24 米、みそ、砂糖、マッチなど10品目の切符制採用 7.26 閣議、基本国策要綱決定(大東亜新秩序、国防国家建設方針) 8.1 東京府、食堂・料理屋などで米食使用禁止 9.27 日独伊3国同盟調印 10.12 大政翼賛会発会式 11.2 大日本帝国国民服令公布 11.- 紀元2600年祝賀行事
6.- 保田休養所増築(内閣印刷局女子工具訓練受け入れのため)	11.19～22 全国総会に代わり、全国YWCA代表者会(国領憩の家)中心思想「信仰による建設」35名、戦時下YWCA体制	4.1 小学校を国民学校と改称 4.13 日ソ中立条約調印 6.24 プロテスタント各派28派合同し、日本基督教団創立

年代	東京YWCAのうごき
1941 ^(続き) (昭和16) 会長 志立タキ 総幹事 加藤タカ	9.- 駿河台女学院報国隊結成 9.- 女学生クラブ廃止 ・大日本青少年団主催の農繁期共同託児、共同炊事に参加100名、千葉、埼玉、神奈川の17カ村 ・宮城外苑整備勤労奉仕参加(基督教連合東京時局奉仕会)1941年1月～43年5月20回延べ、参加1002名
1942 (昭和17) 会長 宮城春江 総幹事 加藤タカ	3.7 第36回定期総会 出席118名 標語「われら神によりて勇ましくはたらかん」少女会員制廃止、YWCA報国団東京支部結成など決定 3.- 基督教女子青年会報国団東京支部結成 6.6 駿河台女学院創立15年記念会 7.～8.- 野尻は会員と学院生徒の鍛練道場として用いる。保田は使用禁止 9.- 加藤総幹事、同盟総幹事を辞任(光静枝が同盟総幹事就任) ・体育部職員は21カ所の会社、工場に出張指導
1943 (昭和18) 東京支部 支部長 宮城春江 総幹事 加藤タカ	1.- 朝鮮YWCA援助前年度で打ち切り(1930年以来継続援助していた) 3.17 第37回定期総会に代わる拡大幹部委員会 出席約50名 強調点：建民運動、奉仕、興亜事業(終戦前の最終総会) 3.- 維持財団の規約改正に伴い日本基督教女子青年会本部の支部となる。従って従来の会長は支部長、幹部委員会は支部委員会と称する 6.- 野尻鍛錬所(キャンプ)中止決定 10.30 日本基督教団女子勤労報国隊及び挺身隊結成(YWCAが世話役となる～1944年11月) 12.- 「世界文化史講座」がきっかけで、講師羽仁五郎、受講生8人検挙(世界文化史グループ事件) 12.- 駿河台会館を海軍水路部に賃貸し、事務所を信濃町(日本YWCA)に移す、会員事業は本部事務所、体育事業及び体育師範部は従来の会館に、家政部・講習は明大新館で継続
1944 (昭和19) 支部長 湯浅清子 総幹事 渡辺松子	3.16 駿河台女学院1943年度卒業式挙行後廃校となる。体育師範部生徒は旧翠香寮に居住、厚生省分室に挺身隊として勤務 3.- 加藤タカ、総幹事辞任、4月より渡辺松子、総幹事就任 4.- 翠香寮に体育関係を移し、体育練成所とする

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	を協議、非常時下全国総会に代わる「同盟委員会」を組織 ・文部省及び基督教連合会の勧告により各市YWCAで報国団結成	10.- ゾルゲ事件 10.18 東条英機内閣成立 11.22 国民勤労報国協力令(勤労奉仕)公布 12.8 日本軍、真珠湾奇襲
2.- 『ゲーム指導読本』出版 3.- 水道町寄宿舎は駿河台女学院専属の寄宿舎となる ・翠香寮の建物を有職婦人寄宿舎に提供	2.7～8 第1回同盟委員会(東京YWCA)「われら神によりて勇ましくはたらかん」28名、活動方針：教会との緊密な連絡提携、戦時下生活指導面に於ける貢献、体育及び厚生方面への貢献、東亜共栄圏への進出 9.23～25 第2回同盟委員会(同盟事務所、東京YWCA)34名、日本基督教団に加盟、同盟組織を本部とし市YWCAを支部とする 11.30 大陸事業として内藤幸、日本人上海YWCA設立のため赴任	2.2 大日本婦人会発足 4.18 本土初空襲 5.15 大政翼賛会改組(各種国民団体、町内会などの指導強化) 5.9 金属回収令、寺院の仏具、梵鐘など強制供出 6.5 ミッドウェー海戦
7.- 保田保養所を海軍水路部へ賃貸 ・『厚生遊戯指導読本』出版(『ゲームと指導』の前身)	5.22 日本基督教女子青年会、維持財団となる 7.20～23 幹部錬成会(東京YWCA)各支部委員・幹事54名、「皇国の重大時機に際し」と題し宣誓 12.- 富士岡荘売却	1.21 中等学校令改正、(中学校、高等女学校、商業学校の修業年限1年短縮、教科書を固定化) 2.- 英・米語の雑誌名禁止 5.12 米軍アッツ島上陸、 5.29 日本軍守備隊全滅 9.8 伊、無条件降伏 9.- 上野動物園、空襲時の危険に備えライオン等猛獣を薬殺 10.21 学徒出陣壮行会(明治神宮外苑)東京近在77校の学生 12.10 文部省、学童の縁故疎開促進発表
4.- 体育館は海軍水路部に、国領憩の家を外務省に、軽井沢家屋を在日ドイツ人に、砂土原外国人幹事邸をブルガリア大使館に賃貸	3.25 『女子青年界』第41巻2号で廃刊 4.- 上海支部応援のため爾見宮子(12月帰京)、長谷川道子幹事派遣 8.25 日本人上海女子青年会支部設立	1.26 東京、名古屋に疎開令 6.30 閣議、国民学校初等科児童の集団疎開決定 7.18 東条英機内閣総辞職 8.4 閣議、国民総武装決定(竹槍訓練など始まる) 11.24 B29東京初爆撃

年代	東京YWCAのうごき
1945 (昭和20) 支部長 湯浅清子 総幹事 渡辺松子	3.- 体育師範部終了式、解散 4.- 日本YWCA、野尻を最終拠点とし開墾と農作業、託児所奉仕などを行う 9.- 駿河台会館は海軍水路部より返還されたが、直ちに進駐軍に接収される 但し、使用許された一部を日本YWCAと共用 11.11 戦後初めての「万国祈祷週」 —毎日新聞に次の広告を掲載— 「YWCA会員に告ぐ 再び世界の姉妹と共に世界祈祷週を守る日が参りました。日本基督教女子青年会の新しい会員運動の第一歩はこの祈りから発足されねばなりません。皆様のご参集を期待いたします。時11月11日 2時 所日本神学校礼拝堂」
1946 (昭和21) 会長 森 智恵 総幹事 渡辺松子	5.18 戦後最初の定期総会 出席約50名 6.- 体育専門学院設置(～1948年3月)(国領) 7.- 「レクリエーションの夕べ」(神田小川町国民学校) 近隣への働きかけ 8.7～11 第1回指導者養成キャンプ(野尻) 9.- 野尻農村事業開始(～1951年) 10.～11.- 田園調布最寄会、杉並最寄会再発足、大森方面児童グループ開始 12.22 日米合同子供クリスマス(日米合同交友委員会主催) ・進駐軍関係の婦人たちのYWCA参加協力するもの多く、日米合同交友委員会が構成された ・BG、家庭青年を中心に会員運動再開
1947 (昭和22) 会長 森 智恵 総幹事 渡辺松子	1.18 ララ物資分配開始 2.- 市川子供グループ、 6.- 大森幼児グループ発足 3.15 東京YWCA会員大会(M.ローのお話と会員の交流 駿河台図書館) 参加150名 3.29 『女性新聞』愛読者大会(文化学院講堂) 3.1 千葉、 6.- 杉並、 8.21 井草、 10.2 本郷西片町 最寄会発足 4.6 イースター早天礼拝(李王家庭園) 4.19 第38回定期総会 会員増加、会員グループ強化、国際交友、体育事業の推進 会費60円 5.- 国際プレーデー(国領) 8.1～5 第1回子供キャンプ(国領) 11.- 支部委員会は再び幹部委員会と名称変更

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
3.10 東京支部カフマン邸、東京支部職員住宅焼失 4.13 納戸町寄宿舍焼失 5.25 水道町寄宿舍、関口町寄宿舍焼失	4.5 信濃町本部事務所強制疎開のため取りこわし、小石川区関口町寄宿舍へ、 5.25 大空襲により焼失、光総幹事宅(杉並区荻窪)へ移転 8月以降、上海支部連絡不能 10.19 常任委員会特別懇談会(神田小松邸)18名出席、戦後のYWCAのあり方について協議 12.14 常任委員会・東京YWCA役員合同委員会(神田駿河台事務所)12名出席、『女性新聞』発刊および指導者養成決議	4.1 米軍、沖縄本島上陸開始 5.7 独、無条件降伏 7.26 対日ポツダム宣言発表 8.6 広島に原爆投下 8.9 長崎に原爆投下 8.8 ソ連対日宣戦布告 8.14 ポツダム宣言受諾 8.15 天皇、終戦詔勅放送 10.24 国際連合成立 11.6 GHQ、財閥解体の指令 12.17 衆議院議員選挙法改正公布、婦人参政権実現 12.29 農地改革開始
5.- 米軍極東空軍依頼により秘書課技術員養成所開所(東府中)～1947年5月 ・会員の就職斡旋(翻訳、通訳、進駐軍メイド等)	3.1 『女性新聞』第1号発刊 4.12～13 中央委員会(駿河台会館) 5.2 植村環会長、米国長老派教会大会の招きで戦後初の日本婦人として渡米、米国各地を訪問 6.21 湘南YWCA設立 7.15～20 戦後初の学生部全国修養会(野尻)「信仰の確信」参加26名	1.1 天皇、神格化否定の詔書 1.4 GHQ、軍国主義者の公職追放、超国家主義27団体の解散指令 2.17 金融緊急措置令(新円発行) 4.10 戦後初の総選挙、初の婦人参政権行使、婦人議員39人当選 5.3 極東国際軍事裁判開廷 5.19 食糧メーデー、25万人参加 6.18 キーナン検事、天皇を戦争犯罪人として訴追せずと言明 11.3 日本国憲法公布
6.1 『ゲームと指導』A6判30円 ・E.カフマンより野尻へ組立家屋の寄付。雪国に不向きのため、了解の上売却、職員住宅を九段の日本YWCAの敷地内に建てる	1.7 M.ロー来日、日本YWCA再建の支援に当る 10.15～27 世界YWCA総会「進みゆかしめよ」(杭州)日本代表出席不許可 11.11～14 第9回全国総会(川奈)世界総会出席代表13名を迎える。中心思想「信仰に立ち、雄々しくすすみゆかん」参加160名 11.15 世界婦人円卓会議「新世界建設への婦人の役割」朝日新聞社後援(日比谷公会堂)参加約2000名 12.27 甲府YWCA発会式	3.31 教育基本法・学校教育法公布、 4.1 施行。6・3・3制実施、国民学校は小学校と改称、新制中学校発足 4.7 労働基準法公布、 9.1 施行 4.20 第1回参議院議員選挙 5.3 日本国憲法施行 10.1 国勢調査(7810万人) 10.26 改正刑法公布(不敬罪、姦通罪廃止) 11.25 第1回共同募金開始 12.22 改正民法公布(家制度廃止)

年代	東京YWCAのうごき
1948 (昭和23) 会長 吉本 朝 総幹事 渡辺松子	3.6 第39回定期総会(千代田ホール) 会員増加、会員間の奉仕、YWCAグループを職場に、図書室設置など協議 4.30 児童英語指導研究会発足 5.- 浦和最寄会発足、上野毛最寄会母親教室始まる 6.26 会員セール開催 純益 85,000円 7.~8.- 駿河台会館で日帰りキャンプ 8.- 各種キャンプ、野尻、国領、保田に再開 8.10~13 児童キャンプ第2期に引揚児童20名招待(国領) ・授産部が設置され、会員に編物、刺繍などの仕事斡旋。同時に授産のための講習会開始
1949 (昭和24) 会長 吉本 朝 総幹事 渡辺松子	3.13 第40回定期総会 会員運動の強化、授産、奉仕部の発展、会員の社会的関心を高める 4.1 イースター早天礼拝(皇居前広場) 8.1 駿河台会館復帰、復旧募金1千万円開始 9.- 女学部再開—200名、14のグループを構成、週1回の集会を開始 10.17 プルンナー博士夫妻を囲む会 11.23 駿河台会館復帰感謝会 12.17 クリスマスファミリーダンスパーティー(会費100円) ・幼児グループは各地に幼稚園の設置により、この年度をもって打ち切り決定(但し田無、大森は継続)
1950 (昭和25) 会長 小塩れい 総幹事 渡辺松子	3.21 第41回総会 主題「会員とは何か」 強調点：会館の活用、会員意識の高揚、大衆とともにあること、社会的に声を出す会となること 3.22~28 キャンプ指導者講習会(文部省・YMCAと共催) 4.26 第1回世界会員日「私たちの仕事と信仰」 5.- 英語クラス開始 5.27 参議院議員婦人候補者立会演説会 7.19~27 国際キャンプ(野尻)
1951 (昭和26) 会長 勝山みさを 総幹事 渡辺松子	2.17 第42回定期総会 会員運動の強化 3.- 都民女性講座開講(東京都と共催) 4.- 教養部に秘書養成科を設置、職業教育開始 8.- 都民生局の協力により、都下養護施設の子どものための夏期学校開催 12.- 朝鮮動乱に際しNCCの韓国難民救済に協力 ・もより会広がる：井草、田園調布、渋谷、本郷、荻窪、上野毛、大森、田無、初台、梅ヶ丘、千葉、浦和

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	1.31 福岡YWCA発会 4.15 YWCA指導者養成所開所(国領憩の家)15名入所、期間5カ月 4.21 呉YWCA発会式 5.23 仙台YWCA発会式 10.5 大阪YWCA「ユースセンター」開始	1.26 帝銀事件 4.1 新制高等学校発足 8.15 大韓民国樹立 9.9 朝鮮民主主義人民共和国樹立 11.12 極東国際軍事裁判所、戦犯25被告に有罪判決、 12.23 東条ら7人の絞首刑執行 12.10 国連総会、「世界人権宣言」採択
・会館復帰と共に、8.12プール、10.1ホテル再開、カフェテリアは主食統制、物価高で商売にならず、主食持参、材料等持参で開業	1.10 札幌グループYWCA発足 4.15 沼津YWCA発会 5.18~8.- 各地で指導者養成研究会、世界YWCA幹事E.パーマー来日指導 7.14~21 少女国際キャンプ(広島県宮島)60余名(内日本の女学生28名) 7.~8.- 幹事養成会(軽井沢)、パーマー、光、石橋指導(7週間) 10.15 函館YWCA発会式 11.18 平塚YWCA発会式	1.1 家庭裁判所全国49カ所設置 4.10 第1回婦人週間 4.25 1\$=360円の単一為替レート実施 5.24 年齢の数え方に関する法律公布(満で数える)50.1.1施行 7.5 下山事件 7.15 三鷹事件 8.17 松川事件 10.1 中華人民共和国成立 11.3 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞 12.1 お年玉つき年賀はがき発売
2.- 『リード・アップ・ゲームス』(新しいボールゲーム50種)を刊行 5.1 職員、従業員は健康保険、厚生年金保険に加入	5.30~6.2 第10回全国総会(東山荘)148名、中心思想「建設」、方針「平和・家庭・伝道」 6.3 中央事務所落成献堂式 11.2 光静枝総幹事、カナダにて死去、石橋宮子総幹事となる 12.21 『女性新聞』158号で廃刊	1.7 初の千円札発行 6.25 朝鮮戦争始まる 7.- レッドパージ始まる 8.10 警察予備隊令公布・施行 10.1 国勢調査(8319万人) 10.17 文部省、祝日に国旗・君が代をすすめる通達 ・平均寿命 女性61.4歳 男性58.0歳
11.- 『YWCA』東京版創刊	1.25 機関紙『YWCA』創刊 10.14~24 世界YWCA総会(レバノン)参加40カ国180余名、光明照子、渡辺華子、石橋宮子出席	4.11 マッカーサー元帥罷免 5.5 児童憲章制定 9.8 対日平和条約・日米安全保障条約調印 ・赤痢流行、死者約15,000人 ・パチンコ全国的に流行

年代	東京YWCAのうごき
1952 (昭和27) 会長 楠 定子 総幹事 渡辺松子	2.16 第43回定期総会 強調点：祈りと実行、平和への貢献、グループの強化、会館の活用 5.- 生活協同部始まる(ゆかた廉売、米国中古品バザーほか) 6.- 児童英語のクラス開始 6.12 合同もより会 参加49名 8.- 母と子の1日キャンプ(母子寮家族招待) 12.14 第1回都民クリスマス「インマヌエル」(共立講堂) 1258名
1953 (昭和28) 会長 佐藤文子 総幹事 渡辺松子	2.7 第44回年会(従来の「定期総会」) 出席234名 強調点：会員グループの充実と強化、聖書日課、一般社会へのPR 成人会費500円に値上げ 2.27 財団寄付行為変更「財団法人東京基督教女子青年会」となる 4.20 「教養部秘書養成科」各種学校の認可受ける 6.13 ルーズベルト夫人歓迎ガーデンパーティー(赤坂離宮) 参加2000名余 7.- 中国引揚者母子1日招待会 8.- 北九州水害見舞いに会員協力
1954 (昭和29) 会長 佐藤文子 総幹事 渡辺松子	2.13 第45回年会 出席288名 強調点：宗教教育、国際教育、健康教育の徹底、各種講座、授産事業、キャンプ教育事業を行う 2.- 女学部名称を中高及び学生部に変更 4.- 精神薄弱児のための特殊教育「職業実習所」を開く(～1962年) 4.- 国領 地域グループ発足 6.- 水爆実験反対の会員の手紙を米国YWCA各市のグループに送る 9.- 争議中の近江絹糸工場へ、レクリエーション指導に出張 ・奉仕部発足 ・失業保険に加入 ・募金目標額 170万円
1955 (昭和30) 会長 佐藤文子 総幹事 渡辺松子	2.12 第46回年会「みよわれすべてのものを新たにすなり」 4.- 武蔵野センター発足(もより会より発展) [創立50周年の記念事業及び行事] 5.- プルナー博士特別講座(4回) 5.3～8 健康展「女の一生」(日本橋三越本店) その後全国17カ所で展示 入場31万人(～1957年) 6.18 ガーデンパーティー(松涛ホテル) 11.3 創立50周年祝典 ・大東京プランとして地域グループ拡充 ・全国合同2000万円募金開始(東京YWCA目標600万円) 8.- 授産所母子招待会(保田2回、駿河台会館1回)
1956 (昭和31)	2.18 第47回年会 8.- 大東京プランとして日帰りキャンプなど 10.- アジア婦人会議出席者を迎えての歓迎会

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
・納戸町の土地売却 ・グループ指導者用ハンドブック発行	6.20 新潟グループYWCA発足 8.1 広島YWCA発会 9.3～5 第11回全国総会(神戸女学院) 主題「この時代への我らの貢献」出席177名	5.1 血のメーデー事件 7.19 オリンピックに戦後初参加(ヘルシンキ) 7.21 破壊活動防止法公布 8.13 IMF・世界銀行に加盟 10.15 警察予備隊、保安隊に改組
・生活協同部と購買部合併、品物の配達を実行、購買高の三分配当実施	2.- 売春禁止法制定促進委員会に加盟(事務所を東京YWCA内に) 4.17 浦和グループYWCA発足(東京YWCAもより会から発展) 5.27 ルーズベルト米大統領夫人来日、全国各地の会員と交流集会	2.1 NHKテレビ本放送開始 3.5 ソ連首相スターリン没 7.27 朝鮮休戦協定調印 ・街頭・店頭TV人気・赤電話登場
・駿河台会館、国領の建物の修理完了 ・キャンプソング集出版	3.20 世界YWCA相互援助計画で韓国YWCA援助、募金及び物資送付 6.18 ビキニ環礁付近の水爆実験に対し「原水爆使用・製造禁止」の願いを世界YWCAに提案 11.23～12.2 世界YWCA会員会議「変革しつつある今日とYWCAの責任」(メルボルン)尾崎順子、北沢恵子参加	3.1 第五福竜丸ビキニ水爆実験被災、9.23 久保山愛吉死去 6.9 防衛庁設置法、自衛隊法公布、陸海空の自衛隊発足 9.26 青函連絡船洞爺丸遭難、死者・行方不明1155人 ・電気洗濯機・冷蔵庫・掃除機「三種の神器」とよばれる
・英文作法書出版	9.1～15 世界YWCA総会(英国サレー) 主題「世界平和に対する世界YWCAの責任」植村環、湯浅清子、光明照子、石橋宮子、渡辺道子出席 11.3 日本YWCA創立50周年祝典 11.4～5 第12回全国総会(東京YWCA) 強調点：キリストにならない正しい人間関係および社会秩序を打ちたてる努力をする。全国運動を強化し、世界YWCAの有力な一員となる 出席191名	6.7 第1回日本母親大会 8.6 第1回原水爆禁止大会 8.24 森永砒素ミルク事件 9.13 立川基地反対闘争 10.13 社会党統一大会 11.15 自由民主党結成(55年体制始まる) 12.19 原子力基本法公布 ・神武景気 ・電気釜発売、家庭電化時代到来
2.- 『YWCA』東京版を『東京YWCA』として発行	10.13 岡山YWCA発会 10.15～23 創立50周年記念事業「アジア婦人会議」(天城山	2.24 フルシチョフ、スターリン批判演説 5.24 売春防止法成立公布

年代	東京YWCAのうごき
1956 ^(続き) (昭和31) 会長 佐藤文子 総幹事 渡辺松子	・大東京プランとして「もより会」新たに6カ所開設 合計24カ所
1957 (昭和32) 会長 松下 実 総幹事 渡辺松子	2.16 第48回年会 社会プログラムを盛んにする、会員の自主的活動を強める 4.- 青少年部を中高部と改称 5.- 肢体不自由児水泳開始 7.~8.- 夏期事業：サマースクール、野尻農村婦人キャンプ参加127名、日帰りキャンプ、お母さんの夏休み(小学生をもつ低所得者のお母さんに夏休みを、1泊2日)(国領憩の家) 10.- 第1回新しい英語教育研究会
1958 (昭和33) 会長 松下 実 総幹事 渡辺松子	2.15 第49回年会 出席274名 会友制度実施決定 2.- 鹿沢深雪小屋スキー合宿開始 4.- 東京YWCA学院発足(教養本科・専科、秘書養成科) 学生総数2240名 9.25 特殊教育部職業実習所、身体障害者更正週間にあたり優良団体として労働大臣賞受賞
1959 (昭和34) 会長 木本貞子 総幹事 渡辺松子	1.- 婦人人権擁護同盟との共催で法律相談室を開設(～1970年度) 2.14 第50回年会 出席232名 社会的責任、宣言目的とプログラムの結びつき 2.24 家事お手伝いさんの会発足 2.- 婦人団体国会活動連絡委員会(7婦人団体国会活動連絡委員会)に加入 2.- 中小企業の店員のつどい 9.- 伊勢湾台風による水害地救援に活躍 10.- 駿河台会館設立30周年記念式典及び映画会、仮装舞踏会等 11.- 第1回正会員特別集会 12.- クリスマス歌声運動を展開
1960 (昭和35) 会長 松下 実	2.13 第51回年会 出席276名 レクリエーション指導者養成、安保新条約反対声明 4.14 安保反対の請願書衆参両院に提出 5.26~27 大バザー(入場約4000人 純益64万円余) 8.- 「お母さんの夏休み」5期に分けて行う 8.- 板橋で「歌とフォークダンスの夕べ」参加500名

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	荘)「アジアの婦人解放のために何が出来るか」参加者：インド、セイロン、パキスタン、ビルマ、マレー、タイ、フィリピン、韓国、台湾、香港のYWCAの指導者22名、日本側23名	6.30 教育委員会法公布、公選制から任命制に 10.23 ハンガリー動乱始まる 11.8 南極予備観測隊出発 12.18 国連総会で日本の国連加盟可決
・医務室にレントゲン撮影機設置	10.3~5 第1回全国会員会議(天城山荘)「家庭生活に於ける私の任務」参加246名	3.15 参議院原水爆禁止決議案可決 3.- 7団体で国連NGO国内婦人委員会結成 7.6 第1回パグウォッシュ会議 10.4 ソ連人工衛星打上げ成功
4.- 関口寮建設決定(日本住宅公団融資を受けて)	4.1 関東地区市YWCA合同研究会 出席42名 7.21~8.1 世界YWCA主催「平和に関するセミナー」(ジュネーブ)白石つき出席 10.16~17 第13回全国総会(駿河台会館)運動方針「人間の尊重」、名称表記を「日本キリスト教女子青年会」とすることを決定 出席211名(代議員132名) 10.18 警職法改正反対声明	4.18 衆議院原水爆禁止決議案可決 12.27 新国民健康保険法公布
4.29 駿河台会館(屋上)の増築落成 7.15 関口寮落成式 8.- 武蔵野センター土地購入 11.- 野尻キャンプ用地購入 ・市谷田町の土地売却 ・キャロル集3万部販売	9.23~10.8 世界YWCA総会(メキシコ)北村孝、竹内菊枝、石橋宮子、光明照子出席 決議：原子力平和利用に関する件、世界を飢餓から救う運動に協力、難民問題の解決をキリスト教団体の責任ですること	1.1 メートル法施行 1.10 NHK教育テレビ開局 1.27 国産1号原子炉起工 3.28 安保改正阻止国民会議結成(婦人団体を含む114団体) 4.10 皇太子、正田美智子と結婚 4.16 国民年金法公布 9.26 伊勢湾台風、死者5041人 12.14 北朝鮮へ帰国第1船 ・岩戸景気、耐久消費財の大幅普及始まる
4.2 武蔵野センター献堂式 ・国際交友部『外人との交際』出版 ・50周年記念の「健康展」パ	8.28~30 第2回全国会員会議(東山荘)「わかちあい」参加231名 ・新安保批准阻止運動展開	1.19 日米新安保条約、行政協定ワシントンで調印。以後新安保阻止国民運動盛んになる 1.25 三池労組無期限ストライキ 5.20 衆議院で新安保条約強行

年代	東京YWCAのうごき
1960 ^(続き) (昭和35) 総幹事 渡辺松子	12.1～21 クリスマス歌声運動(三越劇場他)
1961 (昭和36) 会長 松下 実 総幹事 渡辺松子	2.11 第52回年会 出席176名 新計画:会員相互の成長、青少年指導者養成、秘書養成教育、相互援助(特に東南アジア) 4.8 総委員会 7.1 労働者災害保険加入 8.19～20 第1回会員のつどい「共に生きる」(国際基督教大学) 8.25～28 委員研究会(軽井沢) 12.2 国際交友部、留学生との組合せ第1号誕生 ・YMCAとの共催でレクリエーション研究所設置 所長竹内菊枝(～1968年3月以降YMCAへ移行)
1962 (昭和37) 会長 松下 実 総幹事 渡辺松子	2.17 第53回年会 出席176名 会員運動の強化、平和への努力、相互援助の推進 会費値上げ(A 600円 B 1000円) 4.26 音楽とショー「平和のとりで」(構成:松岡励子 駿河台会館)参加320名余 10.18 シルバーパーティー(オランダ大使館)300名 12.1 正会員のつどい「平信徒運動としてのYWCA会員の責任」 ・特殊教育職業実習所閉鎖、「すみれ会」として活動
1963 (昭和38) 会長 木本貞子 総幹事 渡辺松子	2.16 第54回年会 出席193名 方針:ボランティア活動の強化、英語本科新設 4.14 イースター早天礼拝(日本YWCA、横浜YWCAと共催) 6.26 シルバーパーティー(アメリカ大使館)300名 10.18 世界YWCAボランティアとして、リン・サベージ1カ年の予定で来日。英語教授に当る 11.-～12.- 身体障害者水泳 ― 脳性マヒの人を中心に 参加159名 ・秘書養成科は公共職業訓練所に準ずる扱いとなり、失業保険給付の特別措置が適用される。
1964 (昭和39)	1.16 無料職業紹介所開設につき労働大臣許可 2.15 第55回年会 出席232名 具体的計画:地域活動の拡大、オリンピックの諸行事に協力 会費再値上げ(A 900円 B 1500円) 4.1 世界YWCA相互援助プロジェクト、吉田美知子幹事タンガニーカ(現タンザニア)へ

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
ネル、パンフレットを都社会福祉協議会に寄付 ・『ゲームと指導』改訂再販		採決 6.15 安保改定阻止実行行使 580万人参加。学生に死亡者 10.12 社会党委員長浅沼稲次郎 刺殺さる 11.8 ケネディ、米大統領に当選
	11.2～4 第14回全国総会(駿河台会館)主題「明日の社会をめざして」出席213名 10.1～12.31 世界YWCA相互援助プロジェクトで、金東淑ソウルYWCA幹事研修受け入れ	4.12 ソ連の人工衛星ウォストーク1号地球1周有人飛行成功 6.12 防衛庁設置法、農業基本法公布 8.13 ベルリンの壁構築 ・レジャーブーム始まる
・水不足解消のため井戸を掘削(駿河台)費用400万円 ・武蔵野センター増築完成 ・軽井沢カフマンハウス、オランダ大使館及び国土開発株式会社に3カ月間賃貸	1.- 石橋宮子、世界YWCA指導者養成幹事としてジュネーブへ赴任 2.10 世界YWCA相互援助プロジェクト、竹内菊枝幹事を台湾へ派遣 8.27～29 第3回全国会員会議(比叡山)主題「ボランティア」参加約250名 11.23～24 第1回「キリスト者と憲法」研究会(中央事務所)参加50余名	2.1 東京都の人口1千万人突破 2.20 米人工衛星フレンドシップ打ち上げ成功 5.17 サリドマイド睡眠薬、奇形児問題化のため出荷停止 8.12 堀江謙一ヨットで太平洋横断 10.- キューバ危機 ・東京でスモッグ続き、問題化
・保田休養所、日本テレビ放送網株式会社に賃貸 ・『エマ・カフマンと東京YWCA』(和文、英文)出版	4.1～26 カナダYWCA旅行団(18名)を迎える 4.9～15 加日YWCA会員セミナー(アジア会館) 9.28～10.11 世界YWCA総会(デンマーク)主題「和解の役割」光明照子、渡辺道子、関屋綾子、今井万里出席 「原子力の平和利用」に関して問題提起 10.12 世界YWCA相互援助プロジェクト、江上幸子インドへ	5.4 狭山事件 7.11 老人福祉法公布 8.5 米英ソ3国 部分的核実験停止条約調印 11.22 ケネディ米大統領暗殺
・駿河台の会館の電話等電気設備の整備	2.25 長崎YWCA発会 11.8 熊本グループYWCA発足 ・職員年金・退職金制度改革	6.16 新潟地震 7.1 母子福祉法公布 8.2 トンキン湾事件 10.1 東海道新幹線開業

年代	東京YWCAのうごき
1964 ^(続き) (昭和39) 会長 松下 実 総幹事 渡辺松子	5.27 シルバーパーティー (ドイツ大使館) 参加300名 ・ 会員調査実施 成人会員2137名、会友9683名 ・ 野尻キャンプのプログラムに成人・家族キャンプを加える
1965 (昭和40) 会長 関屋綾子 総幹事 渡辺松子	2.20 第56回年会 会員の増加、指導者養成、留学生の母親運動、会館改修他 6.4 シルバーパーティー (カナダ大使館) 参加400名 [創立60周年記念事業及び行事] 10.17 記念式典 バジエント「一粒の麦地におちて」出席850名 E.カフマンを囲む 晩餐会(椿山荘)参加168名 10.18 スピーチコンテスト 10.19 特別講演会「自由を求めて」(椎名麟三) 参加260名 10.21 特別講演会「平和をめざして私の歩んだ道—キリスト教社会主義者として」 (片山哲)参加510名 10.22 ダンスパーティー 参加約500名 10.23 国連協力年シンポジウム 参加380名 10.23 国際味くらべ 参加410名 記念事業：板橋センター設置 国領の家増築計画 11.5～8 青年層の合同カンファレンス(国領憩の家) 11.- ボランティアコース開催 11.18 武蔵野センター 10周年記念会
1966 (昭和41) 会長 関屋綾子 総幹事 渡辺松子	2.19 第57回年会 出席242名 強調点：会員運動の強化、指導性の開発、地域活動の拡充 4.- 東京YWCA学院生会員となる 7.19～24 60周年記念事業「日本の近代化と女性展」(三越本店) 入場約23,000名 10.15～11.6 国際勉強旅行(米国) 参加20名 11.26～27 第1回青年会議(オリンピック記念青少年総合センター) 主題「平和をつくりだすもの」参加93名
1967 (昭和42) 会長 関屋綾子 総幹事 庄田さだ	2.18 第58回年会 参加342名 強調点：会員運動の強化、青年層の指導性の開発、国際性の強調 5.17 シルバーパーティー (イタリア大使館) 参加720名 7.～9.- 世界YWCA総会前後の来訪者約70名 8.13～15 米国YWCA国際勉強旅行団26名受け入れ 8.27～28 会員のつどい「会員運動の明日を考える」(西熱海ホテル)参加90名 11.8～10 BG祭 参加500名 11.25～26 第2回青年会議(オリンピック記念青少年総合センター) 主題「現代に生きる」参加185名 ・ 国際交友部による留学生との組み合わせ活動の名称「留学生の母親」運動となる

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	のため各市YWCAと協力。	10.10～24 オリンピック東京大会 10.16 中国 原爆実験 11.8 パラリンピック東京大会
	1.14～16 第15回全国総会(駿河台会館、私学会館)主題「ともに生きる—基本的人権の確立をめざして」参加226名	2.7 米軍機、北ベトナム爆撃(北爆開始) 4.17 ワシントンで1万人のベトナム反戦デモ 4.24 「ベトナムに平和を!市民文化団体連合」主催の初のデモ行進 6.22 日韓基本条約、漁業請求権、在日韓国人の法的地位、文化協力の4協定調印
6.12 板橋センター献堂式	7.16～19 全国青年会議 主題「現代と青年—歴史をになう私たちの課題」(東山荘)参加175名	2.4 全日空機東京湾墜落 3.4 カナダ太平洋航空機羽田で炎上 3.5 BOAC機富士山付近で墜落 11.13 全日空YS11松山空港で墜落 8.18 中国「文化大革命勝利祝賀」紅衛兵100万人集会
11.- 砂土原の土地、日本YWCAより返還 ・ 駿河台会館3階屋上に増築	8.19～9.1 世界YWCA総会 主題「世界共同体の要請」(メルボルン) 光明照子、今井万里、大槻幽香、西野和子、渡辺道子(常任委員として)出席 5.～7.- 相互援助計画によりインドより幹事1名受け入れ 10.20 安保特別集会「1970年と私たちの課題—キリスト者と安保問題」(東京YWCAと共催)	2.11 初の建国記念の日 4.15 東京都知事に美濃部亮吉当選 6.5 第3次中東戦争(～6.11) 9.1 四日市公害訴訟 12.11 佐藤栄作首相、非核三原則を言明

年代	東京YWCAのうごき
1968 (昭和43) 会長 佐藤文子 総幹事 庄田さだ	1.- 国領センター発足 2.24 第59回年会 出席218名 強調点：地域活動の活発化、社会的責任の自覚、社会奉仕、世界平和の実現 8.24～25 会員のつどい「社会への責任を自覚しよう」(オリンピック記念青少年総合センター) 参加70名 10.17 シルバーティー(イギリス大使公邸) 参加170名
1969 (昭和44) 会長 佐藤文子 総幹事 梶美津保	2.15 第60回年会 出席221名 強調点：会員の連帯と責任のわかちあい、社会的責任、青少年活動の活発化 6.21 会員のつどい「YWCAと私」(駿河台会館) 参加111名 10.25 会員の会—正準会員問題、安保問題について 参加約100名 ・教養部研究科が社会福祉科と家庭科の2科に分かれる
1970 (昭和45) 会長 佐藤文子 総幹事 梶美津保	2.14 第61回年会 出席201名 強調点：前年に同じ 4.1 学院社会福祉科2年制になる。 4.25 会員日「私は会員運動をこう考える—会員資格について」参加76名 8.1～5 韓国YWCAから5名、台湾YWCAから5名国際キャンプに参加 10.7～8 青年セミナー(従来の青年会議)「混迷からの脱出」(八王子 大学セミナーハウス) 参加69名
1971 (昭和46) 会長 佐藤文子 総幹事 梶美津保	2.13 第62回年会 出席208名 強調点：全会員が聖書を深く読む、「私の履歴書運動」の中から現代の問題を把握する。ひろしま・ながさきの意味をさぐる全国運動に参加、財政の確立 (この年から正準の別なく全会員が議決に参加) 4.1 学院秘書養成科ジュニアコースⅡ新設 4.1 砂土原センター発足 7.29～30 留学生の夏のキャンプ(保田) 参加65名 12.9 クリスマス・パネルディスカッション「キリスト教団体としてのYWCAをめぐる」参加80名
1972 (昭和47)	2.12 第63回年会 出席223名 強調点：キリスト教会員運動の意味の追求、国際団体の明確化、社会の変革に積極的役割をとる、地域社会団体の役割、会の財政への関心 会費値上げ(2000円に)

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
9.20 国領センター新会館落成式(鉄筋コンクリート1階建)	1.13～15 第16回全国総会(駿河台会館) 主題「この時代とわたしたち—YWCAは生きているか」出席235名 11.2～3 第1回会員問題研究全国集会「現代における教会」	4.4 黒人運動指導者キング牧師暗殺 6.26 小笠原諸島返還 8.20 チェコ事件 9.26 水俣病と阿賀野川水銀中毒事件公害認定 10.17 川端康成ノーベル文学賞受賞 10.21 国際反戦デー集会・デモ 12.10 3億円事件発生
3.- 第1寄宿舎跡地(水道町)売却 7.19 野尻キャンプ場竹内ハウス落成	2.27 安保特別集会「1970年と私たち」約300名(東京YWCAと共催) 4.17 福島グループYWCA発足、(仙台YWCAから独立) 7.11～14 第1回全国有職婦人セミナー(天城山荘) 参加120名 11.1 大阪YWCA千里センター開館式	1.19 東大紛争で安田講堂封鎖解除に棧勸隊出動 7.20 米アポロ11月号月面着陸 ・米原子力空母佐世保入港反対デモ ・成田新空港建設反対闘争激化
12.- 国際交友部「入管体制を知るために」出版	1.15～16 安保問題をめぐり臨時拡大中央委員会(駿河台会館) 出席145名 11.13～15 第17回全国総会(天城山荘) 正準会員の区別をなくす、学生YWCAの全国組織解散、全国幹事会を公式の組織とする、強調点に、「核」否定の思想に立つ、を掲げる 出席182名	2.3 核拡散防止条約調印 3.14～9.13 万国博覧会(大阪)開催 3.31 よど号ハイジャック事件発生 6.23 日米安全保障条約自動延長 10.1 国勢調査、人口1億372万人 11.25 三島由紀夫割腹自殺
9.9 砂土原センター落成式・国際交友部「留学生と私たちの歩み」創刊 ＊この年までに以下の施設を所有するに至る 駿河台会館、関口寮、国領憩の家および会館、板橋・武蔵野・砂土原センター会館、保田休養所、鹿沢「深雪小屋」、野尻キャンプ場、軽井沢カフマンハウス	5.27～28 日本YWCA全国バザー(駿河台会館) 7.18～19 第1回「ひろしまを考える旅」参加12名 8.7～20 世界YWCA総会(ガーナ・アクラ) 主題「キリスト者であること」 関屋綾子、石井摩耶子、梶美津保、魚木アサ、渡辺道子(常任委員として) 出席 11.21～22 第2回「ひろしまを考える旅」参加35名、以後毎年夏に開催される	6.17 沖縄返還協定調印 7.1 環境庁発足 7.20 日本マクドナルド1号店が銀座三越内に開店 7.30 自衛隊機、岩手県雫石上空で全日空機に衝突 10.1 いのちの電話開局 10.10 NHKTV全カラー化 10.25 中国の国連復帰決定
6.- 野尻キャンプ場にシャワー室新築、キャビン2棟改築	4.14～15 日本YWCA第1回バザー(中央事務所) 9.- 韓国光州YWCA李愛信幹	2.3～13 冬季オリンピック札幌大会 2.19 浅間山荘事件

年代	東京YWCAのうごき
1972(昭和47) (続き) 会長 佐藤文子 総幹事 梶美津保	3.- 学院教養部本科閉講(1958年発足) 10.14 国連デー特別プログラム「各国の若者と平和を語ろう」参加250名 12.23 '72東京YWCAクリスマスコンサート「音楽と詩と」(全電通ホール) 参加約650名
1973(昭和48) 会長 松岡勸子 総幹事 梶美津保	2.17 第64回年会 出席181名 強調点:前年に同じ 3.24~4.1 ボランティアとスタッフのハワイ研修旅行 参加43名 ハワイ少年少女キャンプ(YMCAと共催、カウアイ島ハワイYMCAキャンプ場) 参加60名 4.- 奉仕委員会を社会福祉委員会と改称し、ボランティア・ビューロー開設。駿河台プログラム委員会、野外教育委員会発足
1974(昭和49) 会長 松岡勸子 総幹事 梶美津保	2.16 第65回年会 出席213名 会則改正:正準会員の区別撤廃、強調点:前年に加え、健康の権利を守るため積極的活動をする、婦人の解放への具体的努力 4.- 駿河台プログラム委員会を改組し、駿河台センターを設置 7.31~8.2 「キリシタンの歴史を訪ねて—長崎・平戸の旅」(福岡YWCA共催) 参加40名 7.- 韓国問題研究グループ「ほうせん花」発足
1975(昭和50) 会長 今井万里 総幹事 梶美津保	2.15 第66回年会 出席215名 強調点:国際的な婦人団体としての役割、センターを拠点とする会員運動の発展 成人会費3300円に値上げ 4.- 秘書養成科ジュニア・コース2年制となる [創立70周年記念事業及び行事] ○世界YWCA総会出席の各国代表を迎えて 7.31 記念レセプション 8.1 シンポジウム「今日の世界における婦人の役割」(東商ホール) 参加350名 8.2~4 カンファレンス(野尻キャンプ場) 10.10 創立70周年記念式典(駿河台会館) 参加264名 松岡勸子構成「み翼のかけに70年」 説教:植村環 講演会「来るべき世代を思って」(森有正) 参加450名 10.11 旧会員・駿河台女学院思い出会 10.12 「さあ、健康な体、あふれる若さ、さあいっしょにやってみよう!」 10.13 劇公演「お春殺し天へ昇る」 10.16 安川加寿子ピアノリサイタル
1976(昭和51)	2.6 都委託のボランティア養成講座開始 参加延べ360名 2.21 第67回年会 出席214名 強調点:センター化の推進と財政の立て直し 4月から会員のセンター所属制度を実施。会費を3400円に値上げ、内1000円を各セン

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
・小中学生英語研究会『グループ学習研究Ⅰ』出版	事研修受け入れ(~'73.1) 10.20~23 全国幹部委員研修会(東山荘)「核」否定、会員問題について協議 参加85名	5.15 沖縄施政権返還 6.11 田中角栄「日本列島改造論」発表 9.29 日中共同声明調印、日中国交樹立 11.5 上野動物園パンダ初公開
	4.5 日本YWCA新会館落成 11.23~25 第18回全国総会(駿河台会館) 主題「YWCA—変革への力」会則改正:前文、基盤、目的の表現変更、会員資格の正準の区別をなくす、加盟条件変更—グループYWCAをなくし市YWCAとする	1.27 ベトナム和平協定調印 8.8 金大中拉致事件 10.6 第4次中東戦争 10.23 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞 10.25 第一次オイルショック、トイレットペーパー買いだめパニック起こる
・留学生の母親委員会出版『留学生は訴える』、『大学入学案内』	3.4 釧路YWCA発会式 4.20 靖国神社法案強行採決に抗議声明 5.26 インド核実験に抗議声明 6.14 福岡YWCAホテル完成	8.8 ウォーターゲート事件でニクソン米大統領辞任 8.30 丸の内三菱重工ビル爆破事件 10.8 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞 11.26 田中首相辞意を表明 ・戦後初のマイナス成長
・『東京YWCA、七十年のあゆみ』出版	7.12~26 世界YWCA総会(バンクーバー) 関屋綾子、江尻美穂子、駒木根淑子、魚木アサ出席 日本YWCA、核否定に関し提案、支持を得る 10.25 第1回日韓コンサルテーション(ソウル)	4.30 ベトナム戦争終る 6.19~7.2 国際婦人年世界会議(メキシコ) 7.19~1.18 沖縄海洋博 8.15 三木首相、現職首相として初の靖国神社参拝 11.15 第1回先進国首脳会議サミット(バリ) 11.22 国際婦人年日本大会 12.15 国連、国際婦人年以後10年間を「国連婦人の10年」と定める
3.- 調査報告書『有能高齢婦人に関する研究』 8.31 調査報告『留学生の受	11.21~23 第19回全国総会(駿河台会館) 主題「現代文明と私たち」基本方針「キリスト教の基盤に	7.2 ベトナム社会主義共和国発足 7.27 田中前首相ロッキード事件

年代	東京YWCAのうごき
1976 ^(続き) (昭和51) 会長 松岡勵子 総幹事 桐美津保	ターに。機構研究委員会と改築問題研究委員会を設け、年会のあり方、幹部委員会と財団との関係の明確化等の研究がなされ、機構改革案が提案されたが決定に至らず 8.7～23 アメリカ一周見学旅行 米国各地YWCAの協力を得る 参加26名 9.- 「東京YWCA学院」を「東京YWCA専門学校」に改称し、新教育制度による専修学校となる。ビジネス専門課程、社会福祉専門課程、語学専門課程の3課程と付帯事業を行う
1977 (昭和52) 会長 松岡勵子 総幹事 浦田伸子	2.19 第68回年会 出席196名 強調点：会員運動の強化、青年の積極的参加、教育事業の充実、財政の確立他 4.- 専門学校生の会員資格は任意となる 4.- 国領センターみぎわグループ(1973年5月発足)に対し東京都から「心身障害児通所訓練事業運営補助金」として170万円交付 9.- 国領センター幼児グループ発足 11.3 第1回チャリティーコンサート(「留学生の母親」運動をささえるため)小沢征爾指揮「第九交響曲」(NHKホール)参加4000名
1978 (昭和53) 会長 松岡勵子 総幹事 浦田伸子	2.18 第69回年会 出席184名 強調点：会員運動の強化、教育事業の充実、財政の確立 3.8 米国YWCAアジア研修旅行団歓迎集会 4.- 専門学校で夜間ビジネスコースを開始 8.15 8・15集会始まる ・青年の体験学習(都の委託事業)参加200名
1979 (昭和54) 会長 村瀬繁子 総幹事 浦田伸子	2.17 第70回年会 出席197名 強調点：前年に同じ 3.1 E.カフマン逝去(98歳) 5.- 「留学生の談話室」毎週土曜日に開設 5.- 体育部で自閉症児水泳クラス開設 8.28～9.10 世界YWCA総会を機にギリシャ・イタリアの旅 参加49名 10.27 国連デー集会—国際児童年特別集会 参加約70名



施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
入れは何のためか』出版	立って変革の力となる」、強調点：①目的・基盤の理解を深め会員運動を強める②「核」否定の思想に立つ③信教の自由を守る 出席188名 12.10～24 「日中友好婦人の翼」第1次実施、23婦人団体から参加138名、内YWCA関係7名	で逮捕 10.22 中国、江青ら4人組事件公表
5.29 国領「憩の家」さよならパーティ(1926年建築、老朽化に伴い閉鎖) 9.- 砂土原センター『心豊かな老い』出版5000部	5.5～11 第2回日韓コンサルテーション(東京他)参加韓国7名、日本5名 10.29～11.4 世界YWCAアジア地区集会(タイ)参加5名	2.- 米、ILO脱退 7.1 国立婦人教育会館発足 7.23 文部省、小中学校の新学習指導要領で「君が代」を国歌と規定 ・平均寿命男72.69歳で世界第1位、女77.95歳でスウェーデンとともに世界第1位
・『有能高齢者における機能の調査』の英文報告書2000部発行 ・C.ブラマー講師の英作文テキスト『Practical English Composition』出版	2.26～3.11 米国YWCAアジア研修旅行団のマレーシア・日本グループの5名来日、核問題を中心に各地で研修	5.20 新東京国際空港(成田)開港 5.23～6.30 初の国連軍縮特別総会開催 国連NGO代表参加 8.12 日中平和友好条約調印 9.15 カトリック、プロテスタント共同訳の新約聖書刊行 10.16 共産圏から初の教皇ヨハネ・パウロ二世誕生 ・マザー・テレサにノーベル平和賞 ・女性学研究日本でも始まる
	9.8～21 世界YWCA総会(アテネ)渡辺道子、魚木アサ、渡辺峯、ランダスハル、星野花枝、横川民子出席 11.23～25 全国総会(駿河台会館) 主題「今、人間として生きるために」、基本方針「キリスト教の基盤に立って変革への力となる」、強調点：①「核」否定の思想に立つ②思想・信教の自由を守る③青少年をむしばむ教育の荒廃とたたかう 出席185名	1.1 米中、国交回復 1.11 カンボジア人民共和国成立 1.13 国公立大学第1回共通一次試験 2.11 イラン革命 3.28 米、スリーマイル島原発事故 6.12 元号法公布 6.21 国際人権規約批准書寄託 10.26 朴韓国大統領射殺される 12.27 ソ連、アフガニスタン侵攻

年代	東京YWCAのうごき
1980 (昭和55) 会長 松岡勸子 総幹事 浦田伸子	2.16 第71回年会 出席182名 強調点：キリスト教を基盤にした会員運動の実践強化、教育のあり方を問いなおす 5.- 国領センター幼児グループおよびみぎわグループ母親全体会員となる
1981 (昭和56) 会長 松岡勸子 総幹事 浦田伸子	2.21 第72回年会 出席196名 具体的計画：「野尻キャンプ50年」を考える、武蔵野センターの会館建築 6.14 野尻キャンプ50周年思い出会、7.4記念会(野尻キャンプ場) 野尻基金設立 10.5 中国帰国者日本語教室を砂土原センターで開始(全国社会福祉協議会の委嘱)
1982 (昭和57) 会長 松岡勸子 総幹事 浦田伸子	2.20 第73回年会 出席182名 具体的計画：駿河台会館の方向を探る、中国帰国者の日本語教育 7.17～8.6 専門学校第1回アメリカ研修旅行(～1995年) ・「留学生の母親」運動奨学金の発足 ・催物企画委員会発足、チャリティーコンサート、公演などを実施(～1991.3)
1983 (昭和58) 会長 関屋綾子 総幹事 ランダスハル	2.5 アジア・アフリカ難民救済と自立援助のためのチャリティー公演「わが愛一馬車道の女」(東横劇場)参加817名 2.19 第74回年会 出席214名 具体的計画：平和憲法を守り戦争への道を阻む 2.25 「留学生の母親」運動をささえるためのチャリティーコンサート 小沢征爾指揮「マタイ受難曲」(人見記念講堂)入場2014名 ・中国帰国者日本語教室、都社会福祉協議会の委託事業となる
1984 (昭和59) 会長 関屋綾子 総幹事 ランダスハル	1.22～31 「留学生の母親」が元留学生を訪ねる「アジア勉強旅行」(タイ、マレーシア、シンガポール)参加27名 2.18 第75回年会 出席211名 具体的計画：生活の質を問直す、駿河台会館改築の研究 会費6000円となる 11.10 第1回「留学生日本語弁論大会」
1985 (昭和60)	2.16 第76回年会 出席208名 具体的計画：駿河台新会館の計画を練る、国際青年年のプログラム展開 [創立80周年記念事業及び行事]

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
1.- 国領「憩の家」取り壊し 7.- 板橋センター増築完成	11.1～3 全国会員会議「今、人間として生きるために」(天城山荘)参加211名	5.18 韓国全土に非常戒厳令 5.27 光州事件 7.9 ミクロネシア・パラオ諸島非核憲法採択 7.19 日本、モスクワオリンピック不参加 9.22 ポーランド自主管理労組「連帯」創設
	4.19 静岡YWCA発会式 8.1～12 国際青年プログラム(I.Y.P)開催(東京、広島、京都、野尻) 主題「平和のために力を集めよう」参加80名(海外17カ国含む)	3.2 中国残留日本人孤児正式来日 10.6 サダトエジプト大統領暗殺
3.19 武蔵野センター新会館落成	11.19～21 第21回全国総会(駿河台会館) 主題「いま、平和の原点に立つ一剣を打ちかえて鋤とする」、基本方針「キリスト教の基盤にたつて変革への力となる」出席222名	2.8 ホテル・ニュージャパン火災、死者32人 4.2 フォークランド紛争 7.26 中国、日本の歴史教科書記述に抗議、訂正要望 8.4 イスラエル軍、西バイルト突入
7.～8.- 駿河台会館改修工事	10.27～30 世界YWCA青年会議(シンガポール)東京YWCA青木理恵子幹事出席 11.1～14 第15回世界YWCA総会(シンガポール)渡辺峯、魚木アサ、江尻美穂子、出村和子、ランダスハル、河越良子出席	9.1 大韓航空機墜落事件 10.25 米軍、グレナダ侵攻
2.25 『野尻キャンプの50年』出版	9.21～22 全国青年会議(東山荘) 主題「21世紀に向けて私たちは」参加50名 9.22～24 全国会員会議(東山荘) 主題「この日、、、新しく」参加193名 9.29～10.8 日中青年友好交流(中国政府3000名招待)YWCAから参加10名	3.18 グリコ社長誘拐事件 8.21 臨時教育審議会設置 9.6 韓国全大統領来日
7.27 カフェテリア閉鎖 11.20 『カフマン讃歌』発刊 11.22 『東京YWCA80年の歩み』発刊	11.2～4 全国青年会議(京都YWCA) 主題「今、若者は何をすべきか一人が人であるために」参加74名	5.17 男女雇用機会均等法成立、86.4.1 施行 6.25 女子差別撤廃条約批准 8.12 日航ジャンボ機墜落事故

年代	東京YWCAのうごき
1985 ^(続き) (昭和60) 会長 関屋綾子 総幹事 ランデスハル	5.7 記念コンサート シュツトガルトバッハ合唱団、管弦楽団「口短調ミサ曲」(東京文化会館) 11.9 ホームカミング・デー 11.22 80周年記念式典・記念講演会(日本YWCAと共催) 説教：左近淑 講演会「生命を選ぶ」R.ソービック、「新しい世界への展望」隅谷三喜男 出席380名 《東京都国際青年年記念事業》 7.4 香港YWCA青年訪問団(15名)受け入れ 8.23～27 「青年ワークキャンプ—森林塾」(松原村)東京YWCAから14名参加
1986 (昭和61) 会長 松岡勵子 総幹事 ランデスハル	2.15 第77回年会 出席成人会員217名 具体的計画：新会館の具体的構想を打ち出す、平和と国際理解促進の青年プログラムを行う 4.10 婦人参政権行使40周年の集い(七婦人団体等と共催 駿河台会館)参加約240名 9.21～23 「ひろしまの旅」を東京YWCAとして初めて実施 参加34名 10.16 国連デー集会 パネルディスカッション パネリスト：加地永都子、辻元清美、ウォーレン・マーガレット、千葉直子、参加約400名 11.8 板橋センター創立20周年記念式
1987 (昭和62) 会長 関屋綾子 総幹事 ランデスハル	1.10 東京YWCA地域ルーム設置実行委員会発足 2.21 第78回年会 出席成人会員245名 具体的計画：会員の総力を集めて新駿河台会館を建てる 10.17 「新会館建築募金」発足会 目標3億円 11.7 駿河台に感謝する集い 参加約400名
1988 (昭和63) 会長 関屋綾子 総幹事 ランデスハル	1.16 第79回年会 出席成人会員230名 具体的計画：新会館の完成をめざし、新会館での活動・事業にふさわしい組織・機構の検討 2.10 駿河台会館閉館 5.16 中国帰国者日本語教室開設(武蔵野センター) 8.25～28 アジア学院ワークキャンプ(「Thai駿旅行」準備講座)参加27名 10.22 1988国連デー集会「生命を選ぶ—子どもたちに何を残すか」(国領センター20周年記念行事と合同) ・1974年に地域センターとして発足した駿河台センターはその役割を終え、新会館には広域的活動の拠点をおくこととした。 ・会館改築中の移転先 関口寮：総務 錦町仮校舎：専門学校、駿河台語学 砂土原センター：「留学生の母親」運動、駿河台センター会員活動、 地域小中学生英語 国領センター：体育部、野尻キャンプ部 板橋センター：ボランティアビューロー

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	11.22～24 第22回全国総会(駿河台会館)主題「生命を選ぶ」出席229名 12.9 松山YWCA発会式	9.22 ドル高是正のプラザ合意 11.13 コロンビア・ネバドデルルイス火山噴火 11.22 国連婦人の10年日本大会 ・小中学校で「いじめ」問題化
8.2～3 駿河台会館新館ワープロ用教室増設	4.1 ユース・コーディネーター設置(～1998.3)	1.28 スペースシャトル“チャレンジャー”爆発 2.25 フィリピン アキノ大統領就任、マルコス亡命 4.26 チェルノブイリ原発事故 11.21 伊豆大島三原山大噴火 全島民避難
8.20 神田錦町仮校舎起工式 12.16 駿河台ホステル営業終了 12.21 駿河台会館購買部営業終了	3.26～30 青年研修旅行「沖縄へ行ってみるかい」参加43名 8.25～9.5 世界YWCA総会(米フェニックス)主題「正義に基づく開発」江尻美穂子、渡辺峯、モスはつみ、鳥田麗子、青木理恵子、雀部真理出席 11.23～26 第4回日韓コンサレーション(日本)韓国7名、日本5名参加	4.1 国鉄分割・民営化 5.20 防衛費GNP比1%突破 7.20 国連安保理 イラン・イラク即時停戦要求決議 9.5 新共同訳聖書刊行 12.7 米ソINF全廃条約調印 ・ソ連ベレストロイカ(改革)始まる ・この年、世界人口50億突破
1.25～26 会館備品セール 2.5 東京YWCA会館解体式 6.27 新会館起工式 【新会館建築】 設計：香山アトリエ・環境造形研究所 施工：鹿島建設・間組・三井建設共同企業体 12.- 「留学生と私たちのあゆみ25周年記念号」(市川房枝基金)1500部発行	2.20～21 キリスト教基盤ワークショップ(日本YWCA)参加29名 10.8～10 ユースミーティング'88「横浜から世界が見える」(横浜YWCA)参加87名 11.18～20 第23回全国総会「生命を選ぶ」(国立婦人教育会館)出席218名 12.20～31 Thai駿旅行(実施運営：東京YWCA)参加23名	3.13 青函トンネル開業 4.10 瀬戸大橋開通 5.15 アフガニスタン駐留ソ連軍撤退開始 6.18 リクルート事件発覚 9.17～10.2 ソウル・オリンピック 12.24 消費税導入を柱とする税制改革関連6法案成立

年代	東京YWCAのうごき
1989 (昭和64) (平成1) 会長 関屋綾子 総幹事 ランデスハル	2.25 第80回年会 出席成人会員177名 具体的計画：新駿河台会館の完成をめざし、オープニングに備える(日本キリスト教団富士見町教会) 11.25～26 「平和の旅」足尾銅山公害の歴史を訪ねて 参加24名 12.15 SURUGADAI 第1回キャロリング(90年より「お茶の水キャロリング」と改称) 参加100余名
1990 (平成2) 会長 松岡励子 総幹事 ランデスハル	2.6 東京YWCA会館竣工式 参加約200名 2.24 第81回年会 出席成人会員157名 具体的計画：新会館完成を機に活動の活性化、オープニングプログラムを通して社会へのアピール(日本基督教団富士見町教会)センター所属制度を廃止し、会員はすべて東京YWCAの会員として登録する 会員数1609名(1月末現在) 4.- 専門学校 学科編成変更 -国際ビジネス科(ジュニアセクレタリー、コミュニケーション) -社会福祉科(ケアワークコース、ヒューマンサービスコース) ・野尻キャンプ「環境教育」をテーマに掲げ、湖の汚染を防ぐなど「地球を守る」視点を具体化する ・鹿沢委員会90年度をもって解散を決定 [東京YWCA会館オープニングプログラム] 4.7 献堂式(カフマンホール) 参加263名 オープニングティー 参加550名 4.8 音楽会「やわらかい心をもとめて」黒沼ユリ子他(カフマンホール) 参加254名 4.9 シンポジウム「東京がおもしろい」香山寿夫、ロビン・ベリントン、田中優子、藤森照信(カフマンホール) 参加250名 4.11 講演会「共に生きる — 高齢社会を考える」参加190名 4.14 オープンハウス 参加300名 4.15 イースター賛美音楽会 岡本和之指揮「メサイア」参加200名 4.20 オープニングパーティー 参加205名 6.17 国際まつり 参加約1000名 ・新会館オープニングに伴い、絵画展、講演会、クラス作品展示など各種催物を次々と開催 10.- 語学ボランティアグループ「ILV(いるぶ)」発足(会館活動) 11.27 ケバントハウス管弦楽団「マタイ受難曲」(オーチャードホール) チケット800枚販売、収益は新会館と中国帰国者日本語教室運営資金へ 12.5 青葉の式(中断していた行事復活) ・1973年以来ボランティア活動の推進母体の役割をとってきたボランティアビューロー委員会解散
1991 (平成3)	2.3 湾岸戦争に反対し渋谷駅前街頭行動、会館外の掲示板にアピール掲載、声明、討論会など開催 2.23 第82回年会 出席成人会員181名 具体的計画：会員活動の一層の展開、青年プログラムIYGに力をそそぐ

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
11.8 武蔵野センター 4階増築 献堂式	1.29 世界YWCA総幹事E.ヘス・グリーンフを囲む反アパルトヘイト集会(日本YWCA)参加38名	1.7 昭和天皇死去 1.8 新元号「平成」 2.24 大喪の礼 4.1 消費税スタート(税率3%) 6.4 天安門事件 11.9 ベルリンの壁崩壊 12.2 米ソ首脳、マルタ会談、東西冷戦終結宣言 12.25 ルーマニア チャウシェスク大統領処刑
2.- 東京YWCA会館* 鉄骨鉄筋コンクリート、地上8階地下2階 4.- YWCAフィットネスワオ(WOW) オープン -水泳プール 25m×9m 水深 3.5m～1m -トレーニングジム -ウエルネスルーム 9.- 軽井沢カフマンハウスを取壊し更地にすることを決定 12.- 関口寮将来計画に着手 *新会館の名称は東京YWCA会館となったので、以降本年表でもそのように表記する。	11.23～12.3 リーダーシップトレーニング— 米国西海岸訪問 研修旅行(アリゾナ・フェニックス) 参加19名	1.13 大学入試センター試験開始 1.18 天皇戦争責任発言の本島等長崎市長撃たれる 2.7 ソ連共産党一党独裁放棄 3.15 ゴルバチョフ初代ソ連大統領就任 3.- バルト三国(ラトビア、リトアニア、エストニア)独立宣言 6.10 ペルー大統領に日系フジモリ当選 8.2 イラク、クウェート侵攻 10.1 バブル経済崩壊 10.2 東西両ドイツ統一 11.12 天皇即位の礼
1.～5.- 砂土原会館大規模改修工事 9.- 『砂土原センター 20年の歩み』発行	3.19～28 日中YWCA交流訪問旅行 参加19名 7.24～8.4 世界YWCA総会(ノルウェー・スタパンガー)「女	1.24 政府湾岸戦争支援策として90億ドル追加支出決定、 2.27 多国籍軍クウェート解放、 4.6 湾岸戦争終わる

年代	東京YWCAのうごき
1991 (平成3) (続き) 会長 梶 美津保 総幹事 佐竹そな江	3.9 新会館建築募金感謝会(カフマンホール)参加130名 募金達成額計34,307万余円(3.31現在) 6.20 砂土原センター「社会時評」始まる 9.- 旧会館で行っていた幼児水泳をワオで再開 ・専門学校付帯教育に福祉の分野を加え、Web Schoolと改め、生涯教育の場とする ・「留学生の母親」運動は、保証人問題、財政的充実への努力 ・ボランティア相談—水曜日を相談日とし、定期的相談開始 ・留学生相談—学校、奨学金、在留問題、宿舎、生活、アルバイトなど取り扱い件数は外国人981件、日本人333件
1992 (平成4) 会長 梶 美津保 総幹事 佐竹そな江	1.11 講演会「南アの集い アフリカに幸あれ!」J.スロキ南アフリカ共和国YWCA総幹事(日本YWCA、NCCと共催)参加80名 2.22 第83回年会 出席成人会員192名 活動計画:人権を阻害する具体的問題への取り組み、生活に密着した活動を全会的に展開 3.- ダイヤモンドサロン(砂土原センター)開始 3.2 「従軍慰安婦問題日韓交流の夕べ」(従軍慰安婦問題行動ネットワーク主催)参加365名 3.18 記録映画「南京大虐殺」上映会と講演会「アジアの国々と日本」(隅谷三喜男)参加150名 6.27~28 環境ワークショップ「うみさち・やまさち」(野尻キャンプ場) 9.30 連続講演会「F1と仕事と文化」(桜井淑敏)参加143名 10.9 「雑誌編集の中で出会った人」参加93名 10.15 「いつも当事者」(ジョン・カビラ)参加246名 10.16~19 「平和の旅-沖縄への旅」を実施(PARCと共催)参加24名 10.31 講演会「変動する世界と平和憲法—身近な問題とのかかわりで考える」(土井たか子)参加100名 11.7 野尻キャンプ60周年記念の集い 参加90余名、「明るい森をとりもどそう」計画の募金活動発足 ・「むさしの談話室」開設(武蔵野センター)
1993 (平成5) 会長 梶 美津保 総幹事 佐竹そな江	2.27 第84回年会 出席成人会員198名 活動計画:国際的視野にたつて人権・環境・女性の問題に取り組む、施設の総合的将来計画 5.1 「沈黙の未来—チェルノブイリ現地報告」(広河隆一)参加166名 5.31 カフマンさんの思い出を語るお茶の会 参加40名 7.8 地域活動大集合 参加約100名 8.26~27 環境ワークショップ「極光(オーロラ)と南十字星」(日本YWCAと共催 野尻キャンプ場)参加24名 10.2 講演会「アジアの平和と日本」(姜尚中)参加112名 11.20 講演会「ボランティア—本来的で豊かな関係性」(金子郁容)参加92名
1994 (平成6)	2.19 青年集会パリコレ'94「エイズについて」 2.26 第85回年会 出席成人会員184名 活動計画:リーダーシップの発掘と育成、プログラムと財政の再検討 4.1 東京YWCAケアサポート正式発足 4.1 専門学校2年課程修了者に「専門士」の称号付与 5.- 関口プロジェクトによる「関口寮跡地利用を考える会」(3回開催)

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	性の方で変革を」モスはつみ、 島田麗子、岩田禮、川戸れい子、川端国世、田中亜子、江尻美穂子(常任委員として)出席 8.25~9.1 IYG(International Youth Gathering)(YMCA六甲研修センター他日本各地)参加300余名(20カ国) 10.13~15 「六ヶ所村への旅」参加31名	2.- 美浜原発で冷却水漏れ事故 4.~10.- ベルシャ湾に掃海艇派遣 6.3 雲仙普賢岳 火砕流発生 6.17 南ア、アパルトヘイト終結宣言 12.30 ソ連邦解体 11共和国で独立国家共同体を形成
7.25 小冊子『日本女性史を見なおす』を発行	1.17~19 第24回全国総会(国立婦人教育会館)主題「世界をみつめ、地域に生きる」、基本方針「キリスト教基盤に立って変革への力となる」出席247名 1.30 日本YWCA事務所一時移転(東京YWCA砂土原センターへ)(~1993.3) 2.26~3.2 第1回日韓青年定期交流(韓国)参加26名 10.13~17 韓国YWCA70周年記念事業「アジア地域環境会議」(ソウル)日本より参加4名	1.15 スロベニア、クロアチア、ユーゴスラビアから独立 6.3~14 「地球サミット」(リオデジャネイロ) 6.15 PKO協力法成立 9.17 カンボジアに自衛隊PKO派遣 10.23 天皇、初の中国訪問
3.- 鹿沢深雪小屋閉鎖 4.3 国領センター新館献堂式	4.3 日本YWCA会館献堂式 10.29~31 全国会員会議「天城'93」(天城山荘)主題「出合いは明日のエネルギー」参加281名 12.10 「環境家計簿」発行	4.23 天皇、初の沖縄訪問 6.9 皇太子、小和田雅子と結婚 8.6 土井たか子初の女性衆議院議長 9.13 パレスチナ暫定自治協定調印 10.- 米凶作により外国米緊急輸入 11.1 欧州連合条約(マーストリヒト条約)発効
	1.25 『明治の女子／女子青年界』と『女性新聞』復刻版発行 2.10~13 沖縄の旅 参加21名 2.19~23 第2回日韓青年定期交流(日本YWCA) 9.10 パレスチナYWCA保育園	3.4 衆議院の小選挙区比例代表並立制導入可決 5.9 南アフリカ共和国 マンデラ大統領誕生 6.22 1ドル100円をきる 6.27 松本サリン事件

年代	東京YWCAのうごき
1994 ^(続き) (平成6) 会長 松岡勵子 総幹事 佐竹そな江	6.14 「入国管理担当者と留学生との懇談会」参加42名 9.29 「レーナ・マリアコンサート」(武蔵野市民文化会館)参加1200名 11.10、14 会員懇談会「会則改正、寄附行為変更について」参加22名 ・ 国領センターでの心身障害児(者)通所訓練事業は都及び調布市から補助金、都共同募金から配分金を受けて運営する「みぎわグループ」に14名の障害児を受け入れ、他の青少年活動に37名の障害児が参加
1995 (平成7) 会長 山本和代 総幹事 渡部幸代	1.18～ 阪神淡路大震災の救援活動開始、神戸YWCAにボランティア25名、職員6名を派遣、募金約260万円 2.25 第86回年会 出席成人会員177名 会則改正：幹部委員の定数変更、幹部委員会の職責一部変更、指名委員会を候補者選考委員会に 活動計画：会員2000人を目指し活動の活性化と次代へのビジョンを描く 3.4 講座「生と死のデザイン」特別企画講演「ホスピスにおける生と死」(山崎章郎)参加201名 5.20 武蔵野センター40周年記念式 参加121名 5.- ケアハウス準備室開設 12.22 ケアハウス設立を理事会決定 [創立90周年記念事業及び行事] 10.3～31 東京YWCA90周年写真展 10.10 日本YWCA・東京YWCA創立90周年記念式典 テーマ「生命を選んで90年」(青山学院講堂) 奨励：J.セロキ 参加669名 10.21 ホームカミングデー 10.- 懸賞論文テーマ「前進しよう！人間の尊厳と地球の回復をめざして」 11.10～15 東京ウイメンズプラザの開館記念イベント「女性の自立展」参加「東京YWCA90年のあゆみ(写真展)」 12.25 '95東京YWCAクリスマス90周年記念特別講演「世界の難民のためにあなたのクリスマスを」(緒方貞子 津田ホール)参加524名 ・ 中国帰国者日本語教室修了後の受けとめの場「丁香(リラ)の会」、朗読ボランティアグループ「かっこう」発足(武蔵野センター)
1996 (平成8) 会長 山本和代 総幹事 渡部幸代	1.16 チャリティコンサート—神戸YWCA復旧のために(浜離宮朝日ホール)参加450名 収益140万円を神戸YWCAにおくる 2.24 第87回年次総会 出席成人会員186名 活動計画：ケアハウスの計画に会員活動の視点から参画、財政5カ年計画2年目目標の達成(前年度の会則改正により「年会」を改めて年次総会とする) 3.2～11 専門学校第1回オーストラリア研修旅行 3.15 「財団法人東京基督教女子青年会寄附行為」の一部変更認可 4.- シニアダイヤル開設 6.21 板橋センター30周年を祝う会 9.20 砂土原センター25周年を祝う会

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	栄養指導に安藤榮里子派遣(約1カ月間) 10.20 世界YWCA100周年記念式典(英国ウエストミンスター寺院)日本から50名参加 11.25～27 第25回全国総会(東京YWCA会館)主題「生命を選ぶ」、基本方針「キリスト教基盤に立って変革への力となる」出席233名	6.30 自社さがけ連立村山社会党内閣成立 7.20 村山首相、自衛隊合憲の所信表明 9.4 関西空港開港 12.15 住民票の嫡出子、非嫡出子の区別を廃止
5.- 『武蔵野の地に四十年』発行 10.- 『会員が綴る九十年—YWCAと私』発行	1.17 阪神淡路大震災、神戸YWCAは全館に被害を受けたが、「災害救援センター」として活動、全国のYWCAから救援金と救援物資が送られた(1千万円超の救援金) 7.7～13 世界YWCA総会(ソウル)「Forward with Vision」島田麗子、梶美津保、榎本まな、黒木順子、鹿野幸枝、鈴木伶子、江尻美穂子(副会長として)出席 7.14～17 世界YWCA総会の訪問団受入れ、東京・横浜YWCAはバハマ、パキスタン、オーストラリア、大阪・京都YWCAはミャンマー、プエルトリコ 8.27～9.6 北京NGOフォーラム参加と中国YWCA訪問 参加22名 10.10 日本YWCA・東京YWCA90周年式典(青山学院講堂) 10.26～29 アジア地域環境会議「女性・環境・開発」(オリンピック記念青少年総合センター)国内60名、海外18名の参加	1.17 阪神淡路大震災、死者6400名余、救援ボランティア延べ130万人 3.20 地下鉄サリン事件 5.15 中国地下核実験 8.15 戦後50年の首相談話、アジア諸国に「お詫び」表明 9.4 沖縄米兵少女暴行事件、太田知事が米軍用地の代理署名拒否 9.4～15 国連世界女性会議(北京)、NGOフォーラム3万人(日本5000人)参加 11.4 イスラエル ラビン首相暗殺 12.14 オウム真理教に対し、破防法の適用を決定
	2.15～19 第4回日韓青年定期交流(東京、霞ヶ浦)	1.19 社会党、党名を社会民主党と変更 2.16 薬害エイズ問題、菅厚生大臣が謝罪 4.1 「らい予防法」廃止 4.17 日米共同声明(日米安保体制の広域化) 5.13 川崎市が職員採用で国籍条項撤廃 12.17 ペルー日本大使公邸占拠

年代	東京YWCAのうごき
1996(続き) (平成8)	・ホームページ開設
1997 (平成9) 会長 川戸いづ子 総幹事 渡部幸代	1.31 砂土原ホステルを考える会発足 2.28 第88回年次総会 出席成人会員187名 活動計画：平和の意味を問いつづけ、世界YWCA総会・北京女性会議決議を具体化、ボランティアとスタッフのリーダーシップの育成 3.28 ケアハウス設立準備計画中止を理事会決定 3.31 板橋センター子どもクラブ終了 4.1 留学生の宿舎保証人サポートシステム発足 6.18 「YWCAの歴史を知る会」参加34名(～1999年10月) 6.28 地域活動大集合「私の町にもYWCA活動を」参加136名 7.10 「パレスチナの社会について聞く会」参加65名 10.28～11.1 「ナスムの家」ハルモニの絵画展(東京YWCA会館)
1998 (平成10) 会長 川戸いづ子 総幹事 渡部幸代	2.28 第89回年次総会 出席成人会員187名 活動計画：高齢者の人権を守る活動、YWCAとしての歴史認識を深める 5.16 「ナスムの家Ⅱ」上映と講演会(ビョン・ヨンジュ監督)参加201名 6.6 地域ルームのつどい 参加58名 7.9～11.14 生活と政治講座「新ガイドラインと私たちの生活」 9.29～11.24 講座「女性と人権」(全5回)恵泉女学園大学と共催 ・新ガイドラインに続く「周辺事態法」案の動きに即応して院内集会等の行動
1999 (平成11) 会長 川戸いづ子 総幹事 新田和子	2.27 第90回年次総会 出席成人会員172名 活動計画：こども、女性、高齢者、障害者、少数者の人権を守る活動、活動と組織の再構築 6.12 IFC(International Friendship Club)「国際友好まつり」参加306名 6.26 会員交流会 参加約250名 10.2 講演会「子どもの虐待はなぜ起こるのか」(矢満田篤二)参加65名
2000 (平成12)	2.26 第91回年次総会 出席成人会員183名 使命：平和、人権、環境をまもる活動を行い、新しい文化の創造に寄与する 計画：憲法改悪阻止、軍備拡大と「核」使用反対、人権を守る活動、環境教育事業の推進 3.- 中国帰国者日本語教室武蔵野校閉じる 4.1 専門学校 国際コミュニケーション科廃止、社会福祉科単科となる 4.1 東京YWCAケアサポートは財団法人東京基督教女子青年会の福祉事業として位

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
		・病原性大腸菌O157の流行
8.15 砂土原ホステル閉鎖	7.7～16 パレスチナ支援旅行 参加10名 9.13～15 全国青年集会(島田市)参加41名 11.29～12.1 第26回全国総会(オリンピック記念青少年総合センター)「平和を実現する人々は幸いである」出席246名 12.- 沖縄グループ発足	2.23 世界初のクローン羊誕生 3.11 東海村動燃再処理工場爆発事故 4.1 消費税5%に引き上げ 5.8 アイヌ新法成立、「北海道旧土人保護法」廃止 6.17 臓器移植法成立 7.1 香港、中国へ返還 9.23 日米防衛協力のための指針(新ガイドライン)合意 11.24 「山一証券」自主廃業申請 12.7 介護保険法公布 12.11 京都議定書採択
3.- 関口町の土地売却を決定	4.14 弘前YWCA発会式 4.30 新ガイドラインおよび関連法案反対声明 5.16 呉YWCA創立50周年 5.26 仙台YWCA創立50周年 11.3 福岡YWCA創立50周年	2.7～22 長野冬季オリンピック 5.11 インド、5.28 パキスタン地下核実験強行 6.22 金融監督庁発足 8.31 北朝鮮、ミサイル「テポドン」発射、日本近海に着弾 10.23 日本長期信用銀行破綻 11.25 江沢民中国主席、初の日本公式訪問 12.1 NPO法施行
	2.27 甲府YWCA創立50周年 3.14～4.4 大村朝子、パレスチナ難民キャンプの保育所で活動 5.10～16 ハーグ国際平和市民会議参加ツアー、日本YWCAから12名参加 7.18～24 世界YWCA総会(カイロ)「変革への力」江尻美穂子、尾崎裕美子、鈴木裕子、石井摩耶子、俵恭子、宮崎佑出席	1.1 EUの単一通貨「ユーロ」11カ国導入 3.1 対地雷全面禁止条約発効 5.7 情報公開法成立 5.24 新ガイドライン関連法成立 6.23 男女共同参画社会基本法公布 8.9 国旗・国歌法成立 8.13 在日外国人指紋押捺全廃 9.30 東海村臨界事故
・東京YWCA会館10年目の大改修	1.22 大阪YWCAシャロン千里竣工式 1.29 平塚YWCA創立50周年 3.17～20 第36回憲法研究会(沖縄船員会館)参加127名 4.1 神戸YWCA創立80周年	1.1 コンピュータ2000年問題 4.1 介護保険制度開始 5.12 犯罪被害者保護法成立 5.18 ストーカー規制法成立 6.13 韓国金大中大統領北朝鮮訪問

年代	東京YWCAのうごき
2000 ^(続き) (平成12) 会長 坂口和子 総幹事 新田和子	置つけられ、東京都介護保険指定事業者となり、居宅介護支援、訪問介護、通所介護の3事業を開始 4.1 「まきば幼稚園」3年保育を開始 4.15 フィットネスワオ10周年記念パーティ 6.13 「YWCAの歴史を聞く会」(～2003.3.19 全13回)参加延べ510名 9.16 劇グループ50周年の集い 参加52名 10.21～11.11 子育て支援講座(全4回) および講演会(板橋センター) 11.11 つくばルーム20周年記念会 参加42名 12.5 お茶の水キャロリング(実行委員会は今回で解散)
2001 (平成13) 会長 坂口和子 総幹事 新田和子	2.24 第92回年次総会 出席成人会員171名 使命：平和、人権、環境をまもる活動を行い、共に生きる社会を実現する 課題：板橋センターのこれからの活動と建て替え計画、ボランティアの理念と養成 6.22 公開講演会「人の自然」(養老猛司、武蔵野公会堂) 参加326名 7.8 映画「センス・オブ・ワンダー」上映会(2回) 入場176名 8.- 「ベタウリスタの夏休み」開始(野尻キャンプ) 9.21 砂土原センター 30周年式典他 9.28 地域ルーム交流会(板橋センター) 参加52名 10.13～12.1 ボランティア国際交流講座(全6回) 11.14 中国帰国者日本語教室、第50回東京都社会福祉大会会長表彰受賞 11.24 中国帰国者のための出張日本語講座を開始(～2003.7.12)(武蔵野センター) 7.13 ケアサポート 第35回キワニス社会公益賞受賞 ・専門学校 ヒューマンサービスコース2年制となる。 ・語学ボランティアグループ「コスモス」発足(武蔵野センター)
2002 (平成14) 会長 坂口和子 総幹事 新田和子	2.23 第93回年次総会 出席成人会員 176名 計画：非戦の立場に立ち憲法改悪阻止、教育基本法をまもる、「核」廃絶の活動、環境教育を進める 3.16 講演会「アフガニスタンの現在をきく」(「留学生の母親」運動、レシャード・カレド) 参加97名 3.23 板橋センター会館お別れ会(鳥海百合子) 参加51名 5.～10.- 療育講座「言葉を育てる—音楽療法を通して」(高島平福祉園、高橋徹、中村ひろ子) 全5回 参加計200名 6.7～7.12 「イスラーム講座」(会館活動) 全3回 10.4 「留学生の母親」運動、国際交流基金奨励賞受賞 11.2～12.13 女性と人権講座「私らしく生きる 夫・恋人からの暴力をのりこえて」参加延195名 11.30 ケアサポート 公開講座「理解しよう！脳の障害—高次脳機能障害の視点から」参加69名 12.13 西マサチューセッツYWCA幹部委員加藤洋子さんを迎えて「日本YWCA米国シェルター訪問ツアー報告と交流会」参加24名
2003 (平成15)	2.3、5.8 環境を考える連続講座「内部告発者保護法案とは」(全2回、川田悦子、石本伸晃 武蔵野センター)参加計56名 2.17 シニアプログラム「ティーボットサロン」開始(国領センター) 2.22 第94回年次総会 出席成人会員156名 課題：社会に貢献する会員活動の推進、100周年にむけて準備 3.- 砂土原センター「結婚相談」終了

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
・砂土原センター 30周年記念誌『30年のあゆみ』	9.9 札幌YWCA創立50周年 11.23～25 第27回全国総会(オリンピック記念青少年総合センター)方針「イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する」、組織の課題「若い会員を増やし、意思決定機関に25%以上の若い会員を入れる」出席238名	8.29 三宅島雄山7月に続き大噴火、全島民避難 12.8 少年法改正施行、刑罰の対象年齢を14歳に引き下げ 12.13 混迷の米大統領選に決着、共和党ブッシュが次期大統領に確定 ・株価低迷、企業破綻相次ぐ
・講演録「理解しよう！脳の障害—高次脳機能障害の視点から」	4.27 「新しい歴史教科書をつくる会」の歴史・公民教科書に関する要望書提出 4.29 神戸YWCA(移転)開館記念の集い 5.1～3 第37回「憲法研究会」今回をもって終了、以後地域YWCA主導のピースアクションを展開	2.9 宇和島水産高実習船、米原潜と衝突沈没 6.8 大阪教育大附属池田小学校で児童8名刺殺 9.11 米、同時多発テロ、 9.14 米両院、大統領の報復措置権限を承認 9.22 日本初のBSE感染を確認 10.7 米、アフガニスタンを空爆 10.13 DV防止法施行 10.29 テロ3法案成立
・講演録「理解しよう！脳の障害—高次脳機能障害の視点から」	4.27 沖縄YWCA発足 10.6 新潟YWCA創立50周年 10.6 広島YWCA創立50周年	4.16 政府、有事法制関連3法案提出を決定 5.31～6.30 サッカー・ワールドカップ日韓大会 8.5 住基ネットスタート 9.10 スイス、190番目の国連加盟 9.17 小泉首相、初の訪朝 10.15 北朝鮮拉致の日本人5人帰国
3.30 板橋センター新会館竣工式 出席85名	5.21 浦和YWCA創立50周年 5.23 ピースアクション2003「暴力のない世界を目指して」(オリンピック記念青少年総合センター) 参加約80名 7.5～10 世界総会及びIWS(プリ	3.11 国際刑事裁判所発足(ハーグ) 3.20 イラク戦争開始 3.～7.- SARS集団発生 4.30 米・EU・国連・ロシア、パレスチナ新和平案「ロードマ

年代	東京YWCAのうごき
2003 ^(続き) (平成15) 会長 川戸れい子 総幹事 新田和子	3.- 神戸支援会 活動終了 3.3～11 「伝えたい、戦争の惨禍を…」東京大空襲パネル展 4.1 板橋センター新会館開所式 参加81名 4.1 心身障害児療育事業“キッズガーデン”(板橋センター)開始 乳幼児療育(月～金)小学生のデイサービス(土) 4.1 ケアサポート板橋開所 4.- 障害児きょうだいの会「きらりんこ」発足(板橋センター) 10.2～9 「ハワイでWOW」参加17名 ・専門学校ケアワークコース 男女共学となる(女子43名、男子30名)
2004 (平成16) 会長 坂口和子 総幹事 新田和子	2.26 第95回年次総会 出席成人会員 162名 課題：公益法人改革の動きとYWCAの組織と活動、女性の人権問題に取り組む、意思決定機関に若い人を 2.24～3.2 「地雷のあしあと」原画展 2.28 「地雷のあしあと」お話と朗読の会 4.1 女性の人権委員会発足 8.12～22 米西マサチューセッツYWCA訪問 3名 4.19 シニアプログラム「いきいき水曜サロン」開始(砂土原センター) 7.- 「エコレンジャー夏休みお助けガイドブック」年少会員配布 9.15～21 中国YWCA高齢者介護員養成初級プログラム講師派遣(北京YWCA)3名 9.25～10.5 「ヒロシマ・ナガサキ写真展」 10.1 お話と懇談の会「ヒロシマから始まったこと」(村上啓子) 9.28 中国帰国者日本語教室、第34回毎日社会福祉顕彰を受賞 ・遺言信託制度の導入
2005 (平成17) 会長 坂口和子 総幹事 尾崎裕美子	2.26 第96回年次総会 出席成人会員139名 使命：キリスト教基盤に立ち平和、人権、環境を守る活動を行い、共に生きる社会を実現する 課題：100周年記念事業の実施、野尻キャンプ場「ゆかりハウス」の改築検討、活動の公益性の明確化 [創立100周年記念事業] ・100周年「年表」作成 ・中国における高齢者介護従事者育成支援 ・アンコア(乳がん手術後の女性のためのプログラムencore)立ち上げ 4.14～7.11 北京YWCA、天津YWCAより職員各1名招聘、東京YWCA専門学校本科・付帯教育にて研修 5.14～7.2 アンコアI期 参加12名

施設・出版・他	日本YWCA	社会状況
	ス페인)「変革の先頭に立って行動する力を」青木恵子、俣野尚子、ランダスハル、松下起子、根本博子、山本知恵出席 11.22～24 第28回全国総会(オリンピック記念青少年総合センター)「平和を実現する人々は幸いである」方針「イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する」、組織の課題「若い会員を増やし、意思決定機関に25%以上の若い会員を入れる」出席148名	ップ」発表 5.23 個人情報保護法成立 6.6 有事法制関連3法成立 7.26 イラク復興支援特別措置法成立
	5.28 ピースアクション2004(オリンピック記念青少年総合センター)発題講演、パレスチナ・呉・沖縄YWCAからの報告 参加約85名 8.21 YWCA平和の集い「みんなでピースラリー」	2.8 イラクに陸上自衛隊派遣 4.8 イラクで日本人3名が14日には2名が拉致 5.1 EUに中東欧など10カ国が加盟、25カ国に拡大 8.9 美浜原発で配管破裂、5名死亡 10.6 イラクに大量破壊兵器なしと米政府調査団が最終報告 10.23 新潟県中越地震、死者40人 12.26 スマトラ沖地震、インド洋津波で死者22万人余 ・少子化進む 出生率1.29人
	5.27 臨時全国総会(オリンピック記念青少年総合センター)会則改正：中央委員の定数変更、加盟YWCAの基準変更 出席104名 8.18～21 「100周年記念国際平和プログラム-ひろしまを考える旅」参加約150名	3.25～9.25 国際博覧会(愛知万博) 4.25 JR福知山線脱線事故死者106名 7.7 ロンドン同時爆破テロ

東京YWCAとクリスマス

クリスマス1922-1938

年月日	テーマ	主な出演者	会場
1922.12.24	第1回市民クリスマス		日比谷公園
1923.12.23	救護班主催のクリスマス祝会(関東大震災の年)		日比谷公園
1927.12.17	市内12のキリスト教団体合同主催で市民クリスマス		
1928.12.23	会館クリスマスの中で聖劇上演		駿河台会館
1929.12.20	青葉の式	参加者430名	駿河台会館
1935.12.7	東京YWCA各部合同クリスマス、ミラクルプレー「世界の光」	会員有志ほか2教会の会員、7大学の学生が出演	日比谷公会堂
1937.12.4	東京YWCA/YMCA合同クリスマス	コーラス200名、参加者1700名	日比谷公会堂
1938.12.20	基督教連合時局奉仕会主催で傷病兵戦没者家族慰問クリスマス プログラム中で聖劇上演	出演130名、参加者3000名	

クリスマスページェント上演記録

(作・演出 松岡励子 1957年のみ高見澤潤子)

年月日	テーマ	劇グループ以外の主な出演者	会場
1952.12.-	インマヌエル	長岡輝子 小池朝雄 三谷昇	共立講堂
1953.12.16	星は永遠に	長岡輝子 近藤準	共立講堂
1954.12.15,16	もう一人の博士「アルタバン物語」	長岡輝子 内田稔	YWCA講堂
1955.12.14,15	羊飼エタンの物語	東京YWCA劇グループ	YWCA講堂
1956.12.18,19	星は永遠に	山本安英 文学座	YWCA講堂
1957.12.16,17	奇跡は起こるのであろう	山本安英 川辺久造	YWCA講堂
1958.12.15,16	聖しこの夜	綱島初子 川辺久造	千代田公会堂
1959.12.21	みよ この星を	山本安英 川辺久造	東京都体育館
1960.12.19	もろびとたたえよ	山本安英 川辺久造	日比谷公会堂
1961.12.22	天には栄え、地には平和	山本安英 川辺久造	共立講堂
1965.12.14	うた声天にみちて	山本安英 川辺久造	渋谷公会堂
1966.12.8	星よいずこに	長岡輝子 川辺久造	サンケイホール
1967.12.14	星は闇に輝く	長岡輝子 川辺久造	サンケイホール
1968.12.18	われは知らず	長岡輝子 劇団世代	渋谷公会堂
1969.12.22	十字架ここに立つ	中川貞子 幸田弘子	渋谷公会堂
1970.12.17	われ転向しにあら ^{ころび} ず	三谷 昇 川久保潔	渋谷公会堂
1971.12.12	ぼくの星はあれだ	中川貞子 山本和子	YWCA講堂

1972.12.23	博士ヤベテのささげもの	中川貞子 須永弘	YWCA講堂
1973.12.15	星だけが知っている	長岡輝子 三谷昇	調布市公民館
1974.12.19	星をみんなの手のひらに	長岡輝子 文学座 劇団雲	NHKホール
1975.12.19	星のとまったところ	長岡輝子 文学座 劇団円	共立講堂
1976.12.6	海と空と星と	長岡輝子 三谷昇	中野サンブラザ
1977.12.17	羊飼いの丘の詩	長岡輝子 川辺久造	中野サンブラザ
1978.12.16	それでもオリーブを植えましょう	長岡輝子 真理ヨシ子	中野サンブラザ
1979.12.15	星がよんでいる	長岡輝子 小池朝雄	中野サンブラザ
1980.12.20	星といっしょに	長岡輝子 三谷昇	YWCA講堂
1981.12.17	その人は馬小屋で生まれた	長岡輝子 三谷昇	中野サンブラザ
1982.12.17	その夜星空の下で	長岡輝子 佐古雅誉	ゆうぼうと
1983.12.16	わたしはその星を見た	長岡輝子 神山繁	ゆうぼうと
1984.12.17	この日キリストは生まれた	長岡輝子 松下砂雅子	ゆうぼうと
1985.12.20,21	暗やみの中で光を見た	長岡輝子 三谷昇	YWCA講堂
1986.12.19	空の鳥を見よ	長岡輝子 梅沢昌代	日本青年館
1987.12.18,19	いちじくの木の下で	長岡輝子 三谷昇	YWCA講堂
1988.12.22	あの夜星を見た	長岡輝子 松井範雄	日本青年館
1989.12.10	いれまつる家あらず	長岡輝子 梅沢昌代	青山学院講堂
1990.12.14,15	あの夜星を見た PART II	長岡輝子 松井範雄	カフマンホール
1991.12.14	それは馬小屋	長岡輝子 松井範雄	カフマンホール
1992.12.17	母よ嘆くなかれ	長岡輝子 松下砂雅子	千代田公会堂
1993.12.17	星は招んでいる	長岡輝子 川辺久造	九段会館
1994.12.16	怖れるな見よ	長岡輝子 梅沢昌代	九段会館
1995.12.25	創立90周年クリスマス講演会 「世界の難民のためにあなたのクリスマスを」	緒方貞子(聖書朗読 長岡輝子)	津田ホール
1996.12.20	星の夜の停車場	長岡輝子 梅沢昌代	カフマンホール
1997.12.19	メシアが町にやってきた	長岡輝子 坂部文昭	カフマンホール
1998.12.18	丘の上に朝が来て	長岡輝子 松井範雄	カフマンホール
1999.12.17	マリアよ	長岡輝子 梅沢昌代	カフマンホール
2000.12.15	嘆きと悲しみは逃げ去る	長岡輝子 梅沢昌代	カフマンホール
2001.12.14	バラバかイエスカ	長岡輝子 松井範雄	カフマンホール
2002.12.13	よろこんで、羊が ^{くま} かえってきた	長岡輝子 川辺久造	カフマンホール
2003.12.18,19	その人を見た	長岡輝子 三谷昇	カフマンホール
2004.12.16,17	インマヌエル	長岡輝子 三谷昇	カフマンホール

(注) YWCA講堂 東京YWCA駿河台会館講堂
カフマンホール 東京YWCA会館カフマンホール

〔典拠〕

- ・「東京YWCA年表(1892～2000)」年表作成プロジェクト
年表作成プロジェクト：梶 美津保、大久保あずま、中山美津江、望月和子、
横倉尚子、和田妙子

〔参考資料〕

- ・東京YWCA年次活動報告、事業報告
- ・月刊 東京YWCA機関紙『東京YWCA』(1956～)
- ・月刊 日本YWCA機関紙『YWCA』(1951～)
- ・『明治の女子』(日本YWCA 1904～1912)
- ・『女子青年界』(日本YWCA 1912～1944)
- ・『女性新聞』(日本YWCA 1946～1950)
- ・『地の塩』(東京YWCA 1926～1939)
- ・『東京YWCA50年の歩み』(東京YWCA 1955)
- ・『東京YWCA80年の歩み』(東京YWCA 1985)
- ・『会員が綴る九十年』(東京YWCA 1995)
- ・『水を風を光を 日本YWCA80年史 1905-1984』(日本YWCA 1985)
- ・『年表 日本YWCA80年史 1905-1984』(日本YWCA 1985)
- ・『近代日本総合年表』(岩波書店 1994)
- ・岩波ブックレット『年表 昭和史 増補版 1926～2003』(岩波書店 2004)
- ・朝日新聞(2004)

あ と が き

東京YWCAは、女性の地位の向上のために、人々の平等のために、正義と平和の実現のためにと願う会員のひたむきな祈りと働きに支えられて、今、100周年を迎えました。その100年の道のりは決して平坦なものではありませんでした。その時を支えた会員はどのような志しと思いをもって過ごしてきたのでしょうか。幸いなことに、震災や戦中戦後の混乱などで失われたものがあるにせよ、今なお多くの資料が残されています。私たちは、その時を映した言葉で記された資料を通して多くのことを知り、学ぶことができます。

これらの資料をもとに年表の形で、東京YWCAの歩みを記録する作業が、年表作成プロジェクトによって進められてきました。膨大な原資料に一点一点あたる地道な作業が積み重ねられて2002年度に完成した「東京YWCA年表(1892年～2000年)」は、閲覧に供するため、すでに製本され保管されています。

100周年にあたり、上記のダイジェストとして「年表 東京YWCAの100年」を作成しました。最後の4年間は事業報告などで補っています。とりあげた項目は、その時々指標となるような活動あるいは次の時代に影響をおよぼしたと思われる活動を抽出しました。また、日常の活動で気軽に活用できるよう小冊子にしています。

東京YWCAのこの豊かな歴史は、正の遺産も負の遺産も含めて、今そして将来の会員の財産です。100年の活動を貫くものと時代の流れにあるものごとを学び、継ぐべきものを継ぎ、東京YWCAの新たな時代に向けて力強く歩み出す糧としたいものです。

なお、校閲の段階で石井摩耶子さん、ランデスハルさんにご協力いただきました。

(坂口和子)

2005年10月

東京YWCA100周年記念委員会年表部会
坂口和子(部会長) 川戸れい子 美川 純 望月和子 中橋真理

年表 東京YWCAの100年

発行日 2005年11月5日

編集 東京YWCA100周年記念委員会

発行 財団法人 東京基督教女子青年会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8
電話 (03) 3293-5421 FAX (03) 3293-5570

印刷・製本 株式会社トライ

エンパワーするNGO



100周年です。YWCA